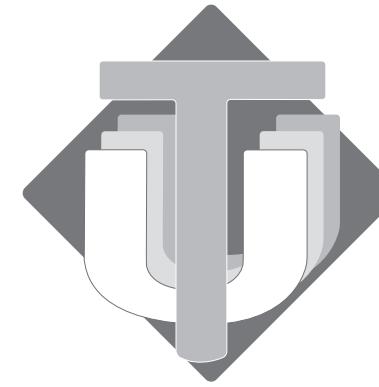




徳島大学サマープログラム二〇一九報告書

# 徳島大学 サマープログラム2019報告書



〈編 集〉

徳島大学サマープログラム等実施委員会  
*Summer Program Organizing Committee  
Tokushima University*

---

## 卷頭言

---

2019（令和元）年度は3部局において徳島大学サマープログラム・サマースクールを開催し、無事成功裡に終了することができました。本事業を連携・調整する立場にあるサマープログラム等実施委員会委員長として、各部局において本事業を企画・実施いただいた担当の教職員の皆様、参加された大学院生・学部学生の皆様には、まずもって敬意を表しお礼を申しあげます。

徳島大学サマープログラム・サマースクールは、学術交流協定校等の学生・教職員を対象とし、夏休みを利用して、短期滞在を通じて各部局において実施されている特色ある教育研究の取り組みや地方都市、徳島の魅力を紹介し、将来の留学先としての徳島大学をアピールすることを目的にしています。同時に本学の学生にも参加を呼びかけ、在学生のグローバル化、キャンパスのグローバル化も目指しています。

徳島大学では、2007（平成19）年、大学院先端技術科学教育部、国際連携教育開発センターの主催により最初のサマースクールが開催されました。翌2008（平成20）年、本学は文部科学省による「大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援）」の1つ「交流プログラム開発型」事業に採択されました。文部科学省支援の下、同年、大学院ヘルスバイオサイエンス研究部とソシオテクノサイエンス研究部の主催による2コースのサマープログラム・サマースクールが開催されました。2012（平成24）年から国際センターおよび総合科学部サマースクールが実施されるようになりました。この間、2010（平成22）年には国際センター主導により、中国大連理工大学日本語教員研修コースと中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT技術研修コースが実施されています。また、これらサマープログラム・サマースクールの事務は当初より国際課が中心となり、国際連携教育開発センター事務、各部局事務の協力を得てきました。

2012（平成24）年にサマープログラム等実施委員会が設置され、以後、本事業は全学的に取り組まれ、実施されるようになりました。2019（令和元）年度の徳島大学サマープログラム・サマースクールは本報告書にまとめられているとおり、海外からの学生や引率教員、本学の学生、地域住民、地元高校生等を合わせ、約140人が参加しました。徳島大学を初めて訪れる留学生が研究室訪問等を通じて、先生方とFace to Faceで交流できる貴重な出会いの場を提供していますことも特筆に値します。今後、本事業をさらに魅力的なものにするとともに、その成果が現れ、海外から本学への優秀な留学生の入学が増加することが期待されます。また、本学の日本人学生の海外留学意欲が向上することも望れます。そして本事業が徳島大学のグローバル化教育の推進に少しでも役立てば関係者にとって望外の喜びとするところです。

最後に本年度のサマープログラム・サマースクールの実施にご尽力を賜った各部局の教員各位、事務職員の方々に深く感謝申しあげます。

令和2年3月  
サマープログラム等実施委員会委員長  
福井清

## 内 容

---

---

1 サマープログラム2019 .....	1
2. 1 総合科学部サマープログラム.....	7
2.1.1 目的.....	7
2.1.2 日程.....	7
2.1.3 講義概要.....	7
2.1.4 エクスカーション .....	8
2.1.5 修了証書.....	9
2.1.6 アンケート結果.....	10
2.1.7 成果報告.....	18
2. 2 先端技術科学教育部サマースクール.....	21
2.2.1 目的.....	21
2.2.2 日程.....	21
2.2.3 講義概要.....	23
2.2.4 エクスカーション .....	25
2.2.5 修了証書.....	27
2.2.6 アンケート集計結果.....	28
2.2.7 成果報告.....	30
2. 3 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 .....	33
2.3.1 目的.....	33
2.3.2 日程.....	33
2.3.3 講義・活動概要.....	36
2.3.4 エクスカーション .....	37
2.3.5 修了証書.....	39
2.3.6 アンケート集計結果.....	40

2.3.7 成果報告.....	49
3 総括 .....	51
4 今後の課題とまとめ .....	52
5 担当者一覧.....	56
サマースクールTシャツ .....	57



# 1 サマープログラム2019

---

## 1. 1 サマープログラムの目的

- (1) 徳島大学を海外にアピールし、海外から見た本学の価値を高める
- (2) 学術交流協定校との関係を強化する
- (3) 将来の優秀な本学留学生確保につなげる
- (4) 徳島および日本を知ってもらい、徳島・日本を身近に感じてもらう
- (5) 徳島大学の教員、職員、学生の国際化を図る
- (6) 英語による授業を拡充する

## 1. 2 沿革

### (1) 2008 (H20) 年度

6月 文部科学省「平成20年度大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援；交流プログラム開発型）」に「英語力を基盤とする新国際化教育プログラム—サマープログラムと短期海外派遣による国際相互交流の推進—」が採択された。

8月 「サマープログラム2008」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～3月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 特別研究プログラム
- ② リサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

### (2) 2009 (H21) 年度

8月 「サマープログラム2009」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～12月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 特別研究プログラム
- ② サマーリサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

(3) 2010 (H22) 年度

8月「サマープログラム 2010」として4コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）
- ③ 中国大連理工大学日本語教員研修コース（新蔵地区・常三島キャンパス）
- ④ 中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT技術研修コース（常三島キャンパス）

(4) 2011 (H23) 年度

7月～8月の間に「サマープログラム 2011」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

(5) 2012 (H24) 年度、2013 (H25) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム（蔵本キャンパス）
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」（新蔵地区）
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール（常三島キャンパス）

(6) 2014 (H26) 年度

7月～2月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム（蔵本キャンパス）
- ③ 先端技術科学教育部サマースクール（常三島キャンパス）
- ④ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」（新蔵地区）

(7) 2015 (H27) 年度

7月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール（常三島キャンパス）
- ② 医歯薬学研究部統合大学院サマープログラム（蔵本キャンパス）
- ③ 先端技術科学教育部サマースクール（常三島キャンパス）
- ④ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」（新蔵地区）

(8) 2016 (H28) 年度～2018 (H30) 年度

7月～8月の間に3コースを実施した。

- ① 総合科学部サマープログラム（常三島キャンパス）
- ② 先端技術科学教育部サマースクール（常三島キャンパス）
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」（常三島キャンパス）

### 1. 3 実施概要

開講コース	<b>総合科学部サマープログラム</b> 2019（令和元）年7月16日～8月8日
	<b>先端技術科学教育部サマースクール</b> 2019（令和元）年7月28日～8月7日
	<b>国際センターサマースクール「徳島であおう！」</b> 2019（令和元）年8月6日～8月13日
	各コースとともに、海外の学生を対象とした英語又は日本語による短期集中講義等を実施して、本学の学生を共に参加させる。
開講場所	徳島大学 常三島キャンパス
対象学生	・学術交流協定校等からの留学生・教員 ・本学学生
主な内容	担当教員による講義、課外活動

### 1. 4 単位の認定

徳島大学で短期集中講義等を実施し、受講者に修了証書を発行

受入留学生：派遣元大学で将来単位認定が可能〈全コース〉

徳島大学生：先端技術科学教育部サマースクール 国際先端技術科学特論 I 2単位



## 2. 1 総合科学部サマープログラム

**Summer Program of Tokushima University ,  
Integrated Arts and Science Course**



## 2. 1 総合科学部サマープログラム

---

### 2.1.1 目的

徳島大学総合科学部のディプロマ・ポリシーには「1. 知識・理解」の項に、

- (1) 人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。
- (2) 多文化・異文化理解や専門的知識の体系化を通じて、自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解することができる。

と記されている。「グローバル化」「地域課題」の解決や、「多文化・異文化理解」との関わりにおいて、ディプロマ・ポリシーを具現化させる取り組みの一つに、サマープログラムを位置づけることができるだろう。総合科学部の学部間協定校である育達科技大学（台湾）から留学生を迎える、講義内での交流を通じて、本学の学生と交流する。学生同士の対話を通じて、お互いの言語や文化を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、お互いの立場を尊重した異文化理解を深めることが、本プログラムの目的である。

活動場所は、大学内にとどまることなく、三好市祖谷、美馬市脇町、阿南市、上板町といった県内各地に広がる。高校生や小学生との交流、地域の方々との交流を通じた課題解決の場を設け、地域の抱えるさまざまな問題を知り、その解決方法について考察を深める場としている。さまざまな地域での異なる世代との交流によって、地域の方々にも、異文化理解に対する興味や理解を深める好機となることが期待される。

期間中は、総合科学実践プロジェクトB（吉岡准教授担当）の学生や、日本言語演習（村上教授担当）の学生を中心に、各プログラムへの同行、留学生が宿泊するしんくら会館でのサポートを行なった。しんくら会館での夕食会は、毎回趣向を凝らしたもので、お互いを知り、理解を深めるのに役だった。

春休みに実施する総合科学部の台湾研修（総合科学実践プロジェクトJ、於育達科技大学）には、この春、21名の学生が参加した。活発な相互交流が軌道に乗りつつある。サマープログラムの経験が、長期の留学への足がかりになることも忘れてはならない。本プログラムにおける種々の交流活動を契機として、本学の学生が、短長期の留学へつなげていくことも期待されるところである。

### 2.1.2 日程

2019年7月16日(火)～8月8日(木) 参加学生数7名

### 2.1.3 講義概要

- 総合科学実践プロジェクトB
- 教養教育院（日本語の敬語）での交流授業
- 総合科学部専門科目（総合科学実践プロジェクトB、日本言語演習、日本語表現の基礎）での交流授業
- 研修報告会（8月7日）

## 2.1.4 エクスカーション

### ○ 小学生・高校生との交流会

- 7月19日(金) 脇町高校での交流会  
7月26日(金) 池田高校での交流会  
8月1日(木) 黒地児童館(阿南市)での小学生との交流会



脇町高校との交流(7月19日)



池田高校との交流(7月26日)

### ○ 学外施設等訪問

- 7月19日(金) 藍染め体験、うだつの町並み(美馬市)  
7月22日(月) 阿波踊り会館(徳島市)、遍路体験、鳴門公園(鳴門市)  
7月24日(水) 阿波十郎兵衛屋敷(徳島市)、技の館(上板町)  
7月26日(金) かずら橋、大歩危駅周辺(三好市)  
7月27日(土) 阿波の農村漁村ワークショップ(阿南市)  
7月29日(月) 四国放送、徳島新聞社見学(徳島市)  
7月30日(火)～7月31日(水) 岡山、倉敷  
8月2日(金)～8月4日(日) 神戸、大阪、京都



藍染め体験(7月19日)



阿波踊り会館(7月22日)

No



FACULTY OF INTEGRATED ARTS AND SCIENCES  
TOKUSHIMA UNIVERSITY

1-1 Minami-Josanjima, Tokushima 770-8502 Japan

October 28, 2019

**CERTIFICATE OF COMPLETION**

Name:

Date of Birth:

This document certifies that the student mentioned above has successfully completed the following programs.

Program

Title: Summer Program of Tokushima University

Course: Integrated Arts and Sciences course

Professor: MURAKAMI、Keiichi、YOSHIOKA、Koyu

Period: July 16、2019 –August 8、2019

Hours: 90h

Signature

KURISU、Satoshi  
Dean  
Faculty of Integrated Arts and Sciences  
Tokushima University

## 2.1.6 アンケート結果

### 【総合科学実践プロジェクトB受講生の交流省察記録から】

報告者氏名 関口俊介 日時 7月29日 場所 しんくら会館  
交流の記録：交流を通して学んだこと・今後の異文化間交流において必要だと感じたことなど。

初めての参加であったが、やはり最初は留学生の方に話しかけづらかった。お好み焼きを作ったがやはりというべきか調理をしている時も他の徳大生参加者と話す方が多かった。留学生側もどれだけ日本語を話せるかによって会話参加の積極性が変わっているように思える。あまり日本語を話せない留学生はやはり留学生に話しかける時が多いように見えたし、日本語が堪能の留学生は徳大生により積極的に話かけていた。しかし、話す以外であればコミュニケーションも行えた。例えば指を指す、何かを切るような動きをすれば互いに伝わる。相手の視線でおおよそ何を求めているかが分かる。言語外のコミュニケーションの重要性を改めて実感した。

また、留学生がいくつか動画などを見せてくれたが中には自分も見たことのあるアメリカ製のゴア表現が目立つカートゥーン『ハッピーツリーフレンズ』を見せてくれた人もいた。台詞がほとんどないアニメーションであるが、その点で世界の誰もが共有できるのだろうかと思った。

報告者氏名 関口俊介 日時 8月1日 場所 しんくら会館  
交流の記録：交流を通して学んだこと・今後の異文化間交流において必要だと感じたことなど。

この日は共同で料理を作るということは無かったが、面白いものを見ることができた。たまたまではあるがテレビのニュースで香港のデモについて報道をしていた。台湾から来た留学生から見ればやはり危機感を覚える内容であったようである。皆、習近平のことは嫌いであると公言していた。日本の投票率の話にもなったが、本音か建前か、なぜか自分は建前だと思ったのではあるが、「日本は民主主義がしっかりしているから投票率が低いんだ」と言われた。どう甘く見積もってもそうは思えず、少し恥ずかしく思った。日本人も明確な外からの干渉による民主主義の危機を迎えるれば、投票率が上がりデモが頻発するような事態になるのだろうか。

また、日本のタピオカブームについても少し話した、台湾が本場と聞いていたが留学生の一人はくだらないと一蹴していた。さらに、日本のアニメの動画を見せてくれた留学生もいた。自分も知っているアニメだったが、日本語を学ぼうと思った理由の一つにアニメがあるらしい。アニメとそれを世界に発信できるネットの影響力を改めて実感した。

報告者氏名 関口俊介 日時 8月7日 場所 阿波観光ホテル  
交流の記録：交流を通して学んだこと・今後の異文化間交流において必要だと感じたことなど。

この日はサマープロジェクトに参加していた留学生の送別パーティーであったが、様々な国々から来た留学生が集まっていた。しかし、それで交流の輪が一気に広がるかと言わればそうではなく同じ国の人間で固まっていることが多く、他の国の人と話すとしてもそれまでに交流したことがある人としている場合がほとんどであった。自分や台湾の留学生もそのような振る舞いをしていた。出された料理を見ると野菜より肉、というかタンパク質が早々に平らげられていた。日本でもそうなるよう

な気がした。面白かったのは並べられていたご飯ものの中で鶏五目飯があつたが、その減りが異様に早かつたことである。他にも栗ご飯などがあつたが、余っていた。  
勿論、日本人も多く会場にいたが、海外の方は他ご飯ものよりおそらく味付けが濃いのだと思う鶏五目飯の方がおいしいのだろうか。かく言う自分もそちらばかり食べてはいたが。

#### 7/17 台湾の留学生との交流会に参加して 心身健康コース 2年 井内青空

台湾の留学生の人たちとは今日初めて会ってみて、初日だったので思ったようにはたくさん話出来ませんでした。今まで English speaker の留学生とは友達になり、ご飯と一緒に食べたり、喋ったりしてきたのですが、台湾の人たちとの交流は初めてで、彼らの喋っている主な言語が中国語？だったので全く理解ができなかつたし、会話に中々入れませんでした。英語以外にも他の言語も勉強して理解できたらなと思いました。でも、中には日本語が得意な人もいたので少し自分から話しかけてみることが出来ました。台湾からのお菓子のお土産ももらって、美味しかつたし、そこからお菓子や食べ物の話をしました。また、アルバイトの話をして写真を見せてもらつたりもしました。

全員とは話出来ませんでしたが、また次回はもっと打ち解けて仲良くなつて色々な話をしたり、食べたり、一緒に笑つたり出来たらいいなと思います。

#### 7/23 台湾の留学生との交流会に参加して 心身健康コース 2年 井内青空

今日は参加するのは2回目で、夕食にそうめんを作つてみんなで一緒に食べました。ご飯の準備では食器を洗つたり、ご飯を作つたりと各自が手際よく動いてスムーズに出来ました。そうめんは茹でたらすごい量になることを学習しました。また、先生のアイデアで具材としてのわかめやすだちは徳島感があつて、そうめんとも合つて美味しかつたです。

前回、初対面の時はあまり話せませんでしたが、今日は留学生のみんなとたくさん色々な事を話せてとても楽しかつたです。特に一緒のテーブルに座つた二人の女の子と友達になりました。1人の子は日本語が得意なので日本語で会話して、もう一人の子は英語が得意なので英語で話ました。一緒にご飯を食べながら、学校や趣味、台湾の事なども知れたりし、色んな言語を使ってとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。食後には台湾のお土産のお菓子をもらいました。今まで食べたことのないお菓子があり、とても美味しかつたです。

#### 7/24 台湾の留学生との交流 心身健康コース 2年 井内青空

今日は元々、交流会の日ではなかつたのですが前日の交流会で友達になつた留学生の子に今日のたこ焼きパーティーに誘つてもらいました。村上先生のゼミ生の人達もたくさんいてとても賑やかでした。また、私の友達のカナダの留学生もいて、みんなでたこ焼きを作つて食べて美味しかつたです。チョコを入れたたこ焼きを作るなど面白いこともしました。

また、食後には全員で輪になつて座り、ゼミ生の人の司会で全員で交流しました。自己紹介から始まり、趣味や兄弟はいるか、今まで行った国など順番に話していきました。司会の人は大阪出身だそうで、司会進行の話し方が面白く、まとめてくれてとても盛り上りました。

台湾の学生や日本の学生もほとんどの人がアニメや漫画が好きだというつながりが分かりました。国や言語、年齢も様々ですが本当に良い雰囲気で楽しく交流出来ました。

7/25 台湾の留学生との交流 心身健康コース 2年 井内青空

今日は夕食にみんなでピザを食べました。昨日のたこ焼きの材料の残りを使って、台湾の留学生が作ってくれた卵炒めは美味しかったです。今日はご飯を食べた後に時間がいつもよりあったのでたくさん友達としゃべる時間がありました。私は隣にいた台湾の女の子と好きな洋楽や映画のことを話したり、明日の授業のことを話したりしました。その子はとても英語が得意なので二人で一時間近く色々なことを英語で会話しました。お互いに英語のネイティブスピーカーではないので、わからない事や伝わらない事はスマホで写真を見せたり実際に音楽を聞かせ合ったりして難なく会話できました。洋楽の趣味や抹茶のスイーツが好きなことも共通で話していて楽しかったし、もっと英語ですらすらと自分の言いたいことが言えるように勉強したいと思いました。

8/7 台湾の留学生との交流 心身健康コース 2年 井内青空

今日は地域・国際センターで台湾の留学生の日本研修の発表を聞きました。みんなそれぞれ、日本で訪れた観光場所や高校生との交流の様子など多くの写真を使って日本語でスピーチしていました。友達に聞くと、あまり準備の時間が無いなか、前日の夜遅くまで発表のスライドを作ったり原稿を考えたりしたそうです。また、英語が得意な子は英語で、日本語が苦手な子は得意な子の通訳で助けを借りたりと、工夫があつたり個性が出ていてとても良い発表が聞けました。日本人である私でも行ったことのない神社や観光場所、着物を着ての撮影、藍染など日本らしい体験をたくさんしていて、とても満喫している様子が伝わってきました。もっと日本が好きになって、興味を持ってくれたら嬉しいです。発表の仕方として、文字を少なく写真や図を多く使用し、カンペを見ずに、聴いている人に喋っているような話し方はとても伝わりやすかったので、プレゼンテーションの時に参考にしたいと思います。

発表を聞いた後、一緒に食堂でお昼ご飯を食べて、その時には留学生の子と英語で会話しました。少し難しかったことは、食堂のメニューについて英語で説明することです。食べ物の名前とは違い、料理を説明するのがとても難しいです。英語を日常で難なく使えるようにしようと思うと、テキストの問題や単語など「勉強！」という感じではなく、日常範囲の物や動作、感情などをすらすらと言えるように学ばなければいけないと分かりました。

その他にも、学校案内や高校生との英語でのワークショップ、日本楽器の演奏、体験に参加させてもらいました。普段日本に住んでいると、日本人でも琴や三味線などの和楽器を聴く機会はほとんどなく、今回留学生の人たちに日本文化を知つてもらう演奏会に参加させてもらったからこそできた経験だったと思います。本物の尺八に触れること自体初めてで、色々アドバイスをもらって吹いてみても音は出ず、とても難しかったです。でも、琴や三味線を弾くことができ、音はとても日本らしい綺麗な音でした。

急遽、参加させてもらえたことになった夜のホテルのパーティーでは、今回一緒に交流してきた台湾の留学生以外にもたくさんの国からの留学生がいて、とても大きなパーティーでびっくりしました。ご飯も美味しかったですが、色々な国の人たちと喋ることができたのがとても楽しく貴重な時間でした。他の留学の団体のインドネシアの人やフロリダの人と英語で会話したり、台湾の人と日本語で会話したりしました。今回気づいたことは、海外の人は話すきっかけとして学校での専攻を聞くということが初めて分かったので、次からは自分の専攻をもっと詳しく英語で言えるようにしたいです。

### 【総合科学の基礎 A 受講生の感想から】

かけがえのない交流 総合科学部社会総合科学科 1年 安田結月

私は大学入学時に外国の友人を作ることを目標の1つとして掲げていたことから、今回のプログラムへの参加を決めた。アメリカや中国、マレーシアやインドネシアなど言語も文化も全く異なる学生と交流できたことはこれまでにない非常に有意義な機会となった。サマープログラムに参加するにあたって1番の不安要素となったのは言葉の壁だ。私はこれまでに海外経験もなければ外国人と話す機会も少なかったため円滑にコミュニケーションを図れる自信がなかった。英語圏でない学生同士でも積極的に英語で会話している姿を見て自分の英語力の乏しさを痛感する場面が何度かあった。そんな中言葉の壁を越えて盛り上がるきっかけとなったのは日本のアニメだ。プログラムに参加していた学生の多くが日本に興味をもった理由として日本のアニメを挙げており、大学巡りの時にその話題でかなり盛り上がったことが印象的だ。国の違いなど関係なく共通の話題で会話が弾み一体感を感じた瞬間だった。私が今回のプログラムで学んだことは3つだ。1つ目は必死に伝える力である。言いたいことを伝えられない悔しさやもどかしさは実際に外国人と話さなければ分からなかった。使える英語力の重要性を痛感する経験となった。2つ目は海外に視野を向ける姿勢である。今回交流した外国人学生は日本に強い関心を抱いていることが話していてよく伝わった。日本人として日本に目を向けることは当たり前だが、広く世界に関心を寄せるることは自分の視野を広げ多様な価値観や考え方を得ることに直結すると感じた。そして3つ目は異文化交流のかけがえのなさだ。プログラムとしての時間はあつという間に感じたが限られた時間の中で多くの友人ができた。いつかまた会いたいと強く思うが日本の友人と違って簡単に会えるとは限らない。しかしだからこそ貴重な思い出となったのだと確信できる。サマープログラムへの参加は私にとって非常に大きなアクションとなった。私は言葉の課題を含め、井の中の蛙からの脱却を図る必要がある。そのための1歩としてこれからも異文化交流に迷わず積極的に参加しようと思う。

### 【高校生の感想から】

徳島県立池田高等学校 1年 佐古紫穂

大歩危・祖谷のフィールドワークに参加しました。今まで、こんな風に外国人の方と交流したことになかったから、どう接すればよいかという不安がたくさんありましたが、とてもフレンドリーで良い人ばかりで楽しかったです。だけど、話が通じないときもあったから、もっと英語などを頑張って勉強したいと思いました。この体験を通して語学に興味がわいたし、地域の魅力を外国人の方にどう伝えるかという課題も分かって、地方創生の難しさを感じました。

徳島県立池田高等学校 1年 藤山恵美

教室での交流会に参加してみて、台湾の学生さんはみんな日本語が上手でした。母国語と英語、日本語の三カ国語が話せることに驚きました。台湾の学生さんはとてもフレンドリーで親しみやすかったです。

台湾と日本との違いを尋ねてみると、全員「交通」と言っていました。日本と違い、台湾はバイクが多いので、細い道でも追い抜くことができ、とても危険で怖いのだそうです。日本では無茶な追い越しさはほとんど見ませんが、自動車よりバイクの方が多くなれば、日本でも起こりえることなので怖いなと思いました。

また、台湾より日本の方が商品の価格が高いことを知りました。最初は驚きましたが、日本の方が働く人の賃金が高いので、バランスがとれているんだなと思いました。どのくらい違いがあるのかを聞けなかったので気になります。台湾以外の国との商品の価格や賃金も調べてみたいと思いました。

徳島県立池田高等学校 1年 藤村 萌衣

台湾からの交換留学生の方たちと交流しました。

日本語で話すことも英語で話すことも、コミュニケーションをとることが難しくて、はじめは少し戸惑ってしまいました。でも交流をしていくうちに、だんだんと会話がはずんだりするようになりました。どの人も、日本のことが好きだという気持ちが伝わってきて、私もうれしくなりました。私も日本の良さをたくさん知ってほしいので、もっと多くの方に日本に来てもらって、もっと日本の良さを知ってもらって、日本を好きになってほしいです。

日本語がペラペラな方も多くてびっくりしました。英語は個人差があって、小学校から習っている人も中学校になって習い始めた人もいるみたいでした。母国語の他にも2カ国語を勉強していて話せることは本当にすごいなと思いました。私も英語の勉強を頑張りたいと思います。

徳島県立池田高等学校 1年 山口楓乃

台湾からの留学生7人の中には、日本語が上手な方と、まだ話せない方がいました。英語なら大丈夫という方が多かったので、簡単な英語だったけど会話をすることができます。

留学生の皆さんはアニメ好きな方が多くて、アニメの話で盛り上りました。そのほかにも、台湾の料理と日本の料理の話や、徳島以外で行ったことのある日本の町の話、日本語を勉強しようと思ったきっかけなど、たくさん質問してしゃべることができました。

初めて台湾の方と交流して緊張したけど、友達もいて一人でなかったので、たくさん会話をしている経験になりました。

徳島県立脇町高等学校 2年 土井陽菜乃

夏休みに、徳島大学で台湾の留学生の方々と交流会がありました。

私はこの交流を通して、異なる文化を持つ人とコミュニケーションを取る上では、言語力と同じくらい、相手の気持ちを考えることや、自分の考えを相手に伝えようとする姿勢が大切だと実感しました。

また、ある留学生の方が将来は台湾と日本をつなぐ仕事がしたいと仰っていたことが印象に残りました。この留学生のように、私も視野を広く持ちたいと思いました。

今回の交流では、私は自分から話しかけることができなかつたので、12月の台湾研修では少しでも自分から現地の方々に話しかけたいと思います。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

徳島県立脇町高校 2年生 佐竹里菜

台湾の留学生たちのプレゼンテーションを見て、自分たちが見ている徳島と、外国から来た人が見る徳島は結構違うことがわかりました。私は徳島をとても田舎で不便な場所だと感じていました。しかし、世界的な規模で考えると、発展した都市に見える場合もあるのだと気づきました。私はずっと日本にいるせいで幸福なことを当たり前のように思っていたので、これからは日本から出て世界的な経済格差などについてもっと知りたいと思いました。

また、日本独自の楽器もあまり触れる機会がなかったので新鮮でした。異文化理解をするためには、まず自国の文化を深く知ることが重要だと思うので、楽器だけでなく他の文化についても知りたくなりました。

今回の交流会で、自分の知らなかつた徳島または日本について知れてよい勉強になりました。台湾に行く前に日本についてもっと知り、交流を深められるようにしたいです。

### 【台湾学生の感想から】

徳島大学夏期研修に参加して

育達科技大学 曾詩涵

今年の夏休み、クラスメート5人とともに徳島大学総合科学部の主催する日本文化研修に参加しました。今回この研修に参加した理由は、今年3月に台湾研修で私たちの大学に来てくださったとても「人情味」のある学生の皆さんと再会したかったから、そして、皆さんのお暮らす「徳島」で3週間過ごしてみたいと思ったからです。

徳島に到着すると、周りから聞こえてくる言葉は全て日本語で、これは、正に、私が長年求めてきたもので、やっと日本で、日本語で生活できると、とてもワクワクとした気持ちが込み上げてきました。実際に毎日村上先生が色々な場所に連れて行ってくださり、たくさんの人たちと日本語で交流することができました。

どの交流もとても楽しかったのですが、一番印象に残っている交流は、脇町高校の生徒さんとの交流です。日本の高校生の考え方や興味のあることが知れるとても貴重な時間でした。台湾と日本のことについて色々と比較をしながら話をしましたが、その中でも特に盛り上がったのがアニメや漫画についての話題です。現役の高校生とこのような話題について話すのは初めてで、特に私と同じ「JOJO」シリーズが好きな生徒さんと出会えて、色々と語れて、とてもうれしく、そして、不思議な気持ちでした。生徒さんたちとの話し合いが終わった後は、部活動を見学しました。青春の汗をかいている高校生たちは本当に輝いて見えました。天候を心配することなく運動できる広い体育館、そして、部活動のために設置された部屋。もし、いつしか、台湾の高校にもこのような施設が普及させられたら、高校生たちはもっと楽しく高校生活が送れるだろうに、と思いました。部活動の見学を終えた後は、創立90周年記念事業として建てられた芳越歴史館を見学しました。日本の高校の歴史館を見たのは初めてで、建物の中には書類や写真、機械などがきれいに保存していました。脇町高校の皆さん、この学校をどれほど大切に思っているかということがとてもよく分かりました。もし記念のはんこが押せるなら、押して、持って帰りたいぐらいでした。

脇町高校へ行った以外にも、池田高校、祖谷、岡山、関西、そして、徳島新聞社など、たくさんの場所を訪れました。そして、それぞれの場所で色々な人たちと会って、色々なことを体験しました。この研修に参加して、本当に貴重な経験ができたと心から思います。このような経験ができる、

充実した3週間が過ごせたのも、毎日、一日中、私たちをお世話くださった村上先生と徳島大学の学生の皆さんのお陰です。本当にありがとうございました。徳島大学に留学できるその日が待ち遠しくてなりません。その時には、また、どうかよろしくお願ひいたします。

### 徳島大学夏期研修に参加して

林袖榆

私は今回、徳島大学の3週間の研修に参加しましたが、非常に収穫が多かったです。徳島の豊かな文化をたくさん体験しました。例えば、阿波踊りや藍染、淨瑠璃などです。また、徳島大学の学生さんたちと一緒に勉強したり、阿南で地元の人たちと地域創生について討論したり、台湾とは違う授業方法で台湾にはない授業内容を学んだりしました。出発前にスケジュール表に書かれていたことと同じことを実際に体験でき学ぶことができて、本当に嬉しかったです。

色々な人たちと交流する機会がありましたが、その中で一番面白かった交流は、阿南で地元の人たちと地域創生について討論した時の交流です。私のグループは、私以外は全員が阿南の人で、最初は、自分はまだ知識が足りないからちゃんと討論できないかも知れないと、とても不安でした。しかし、少しでも地域創生のお手伝いができたらと思い、勇気を持って自分の意見を言いました。意見を言うと、皆さんから「さすが徳大の研修生ですね！」と言われました。その時、私はとても嬉しかったです。地域創生の内容も興味深かったです。外国人の私にも、皆さんの地元愛がとてもよく伝わってきました。

研修の3週間はとても充実していて、そして、あっという間に終わってしまいました。新しい知識を得ることができ、多くの人と交流して親交を深めることができました。日本のことについて色々と教えてください、毎日お世話くださった村上先生、そして、忙しい中、ずっと私たちを案内してくださいました徳島大学の学生さんたち、私たちと何とかコミュニケーションを取ろうと頑張ってくださいました高校の生徒さんたち、この研修で出会った優しすぎる人たちに、心から感謝いたします。またチャンスがあれば、もう一度徳島大学の夏期研修に参加したいです。

### 徳島大学夏期研修に参加して

林承穆

研修期間中には、色々な場所に行きました。どの場所もとても印象深いです。

例えば、脇町高校です。まず、脇町高校では、私たち台湾人1人に対して脇町高校の生徒さん数人というグループに分かれてディスカッションをしました。生徒さんたちとは台湾と日本を比較しながら色々と話しました。生徒さんたちは、私たち台湾人が日本語で分からぬ言葉があると、一生懸命に意味を伝えようしてくれました。ディスカッションが終わった後は、バレーボールやラグビーなど色々な部活を見学、体験しました。脇町高校の生徒さんたちは、みんな暑い中、しかも、夏休みなのに、一生懸命練習していて、すごいなと思いました。体験については、私は、台湾ではスポーツはやらないので、バレーボールやラグビーを実際にやってみて、なかなか面白いなと思いました。脇町

高校での交流が終わると、藍染め体験ができる場所に行きました。藍染めをしたのは生まれて初めてでした。藍染めは、ビー玉や木の棒など色々な道具で使って作業を進めていきました。作業をしている時は、独特な匂いがして、臭いなと感じていたのですが、完成した自分のオリジナルの藍染めを見た時には、とても達成感がありました。

また、池田高校にも行きました。池田高校の生徒さんとは、一緒にホラガイを吹いたり、みょうが狩りをしたりしました。沿道でホラガイを吹くのはちょっと恥ずかしかったのですが、今思えば、あれもめったに経験できないことですし、体験できて良かったなと感じます。

それから、徳島新聞社にも行きました。新聞の作り方を習ったり、情報番組を放送しているスタジオを見学したりもしました。新聞社へ行ったことも、テレビ番組を放送している放送局へ行ったこともない私にとって、日本のこのような所に行けて、本当に興味深かったです。

これらの他にも、日和佐へ行って地元の人たちと地域創生について討論したり、岡山や関西へ観光にも行ったりしました。そして、毎日よう通ったイオン。研修の3週間、本当に色々な場所に行って、決して台湾では見られないもの、体験できないことを、見て、体験して、とても充実した毎日でした。このような毎日を過ごし、無事に研修が終えられたのも、村上先生と徳島大学の学生の皆さんのが毎日、一日中、お世話してくださったからです。私たちに優しくしてくださって、どうもありがとうございました。研修に参加して、本当に良かったです。

### 徳島大学夏期研修に参加して

王彥明

今年の夏休み、3週間の徳島大学の研修に参加して、台湾ではできない色々なことをしました。藍染めや阿波踊りなど徳島の伝統文化を体験したり、脇町高校や池田高校を訪問して高校生と交流したり、日和佐へ行って地元の人たちと地域創生について討論したり、また、岡山や関西にも観光に行きました。

どの活動も全て印象に残っていますが、一番印象に残っている活動は、脇町高校と池田高校を訪問したことです。生徒さんたちと一緒に台湾と日本についての話し合いをする以外に、部活動の見学もしました。私は、日本の高校の部活動の種類の多さに驚きました。台湾の高校にはない部もたくさんありました。私は卓球ができますが、卓球部もあったので、生徒さんたちと一緒にやらせてもらいました。まさか、日本で、日本人とできるとは思いませんでした。とても楽しかったです。また、もう一つ、台湾とは違うことを高校で知りました。それは、日本の学校では、校舎に入ると、上履きに履き替えるということです。台湾では、靴を履いたまま校舎に入り、靴を履いたまま授業も受けます。私は、上履きに履き替える生徒さんたちを見て、こういったことはとてもいいことだなと思いました。

以上のように高校での体験が一番印象に残っていますが、その他にも、めずらしい体験として、徳島新聞社と阿波踊り会館へ見学に行ったことも、とても印象に残っています。新聞がどうやって作られるのか、どんなところで情報番組が放送されているのか、また、阿波踊りはどうやって踊ればいいのか、このようなことを知る機会は、めったにないことだと思います。

私は元々体が弱く、研修中も体調の問題で、村上先生には本当にご迷惑をおかけしてしまいました。全ての活動をきちんとこなすことはできませんでしたが、それでも、私にとっては、とても充実

していて、非常に有意義な3週間でした。無事に終えられたのも、村上先生と徳島大学の学生の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。



## 2.1.7 成果報告

総合科学部専門科目（総合科学実践プロジェクトB、日本言語演習、日本語表現の基礎）および教養教育院科目（日本語の敬語）での交流授業において、多くの本学学生が参加した。身近な隣人でもあり、同世代でもある台湾からの留学生との交流を通じて、お互いの言語や文化を学ぶことでコミュニケーション力を高めるとともに、それぞれの立場を理解し尊重できるよき機会となった。

留学生にとっても、台湾で学んできた日本語、日本文化について、実際に使用し体験することで、自身の学びの再確認につながり、今後の進路や学びにも、大いに資するものになったと思われる。

授業以外の交流としては、夕方に、留学生が寄宿するしんくら会館にて共同の調理を実施した。留学生と日本人学生がいっしょに語らいながら夕食を作り食べることで、その日の出来事やお互いのこと、将来のことなどを日本語で語り合った。回を重ねるたびに話題も広がり、それぞれの文化や考え方、留学に対する興味などが高まっていったものと思われる。

留学生には、日本、徳島での文化体験や、地域見学の希望が多い。そこで、エクスカーションについては、日本の自然・文化・歴史・暮らし・環境・地域課題などを総合的に学習できるプログラムを準備した。

大歩危では、池田高校の生徒とともに台湾からの観光客を目の当たりにし、日本の地域社会、観光業におけるインバウンドの実態を体感することができた。留学生の中には、将来、日本で働くことを希望する者もあり、またとない経験の場となった。高校生との交流はなかなかない経験のようで、教室、生徒の振るまい、部活動のひとつひとつが目新しいものであったようである。

総合科学実践プロジェクトJのプロジェクトのひとつとして、春季に短期で育達科技大学へ学生を派遣するプログラムも今年度で6回目を迎える。サマープログラムでの交流をきっかけとして台湾への留学を希望する学生も年々増加していて、この春には21名の学生が参加し、相互学生交流による親善が深まっている。本報告書における学生の感想には、学生同士の親密な関係が生の声として反映されている。さらに、育達科技大学においては、短期のプログラムを経験した後、交換学生として徳島大学に留学を希望する学生も安定しており、この3年間で10名の学生が1年間の留学を経験している。相互互恵の精神のもと、学生間の交流がますます深まっている。

## **2. 2 先端技術科学教育部サマースクール**

**International Affiliated Double-Degree Program  
Summer School**



## 2. 2 先端技術科学教育部サマースクール

### 2.2.1 目的

本プロジェクトは、7月最終週から8月第1週に大学院生を対象としたサマースクールを学術交流協定校と連携して開講し、外国大学から留学生を短期に受け入れ、環境・エネルギー技術に関する先端技術科学の授業を中心に英語で実施する。これらの授業は本学教員と外国大学教員が共同して受け持ち、本学学生も受講する。この短期受入プログラムでは、当教育部のグローバル大学院工学教育プログラムに準じたナノテクノロジーコース、電気エネルギー・情報工学コース、環境保全コースのサマースクールの講義内容の3つを柱とし、日本語のしくみ・日本文化を解説する講義や徳島の文化・技術を体験できるフィールドワーク、徳島県内企業が実施している環境・エネルギー対策の取り組みに触れる機会となるツアーを提供する。また、各留学生に対しては、興味や専門分野にマッチした本学研究室のインターンシップを実施し、将来本教育部のダブルディグリープログラム等で留学する動機付けを与える。

日本人学生に対しても、外国大学からの受入学生とともに講座やフィールドワーク、PBL型グループディスカッションを経験することで、実社会での問題解決に果敢に挑戦できる国際感覚を身につけた専門知識を持った高度な環境エンジニアを養成する。

### 2.2.2 日程

期間 2019年7月28日（日）～8月7日（水）

参加人数 38名

Nanotechnology and Material Science Course	21名
Electrical Engineering and Information Science Course	16名
Civil and Environmental Engineering	1名

大学別内訳

National Taiwan University of Science and Technology	8名	台湾	14名
Southern Taiwan University of Science and Technology	4名		
National Chiayi University	2名		
Universiti Teknikal Malaysia Melaka	5名	マレーシア	5名
Xi'an Jiatong University	2名	中国	3名
Beihang University	1名		
Dr. Babasaheb Ambedkar Marathwada University	2名	インド	2名
King Mongkut's University of Technology Thonburi	1名	タイ	1名
徳島大学	13名		

# Summer School 2019

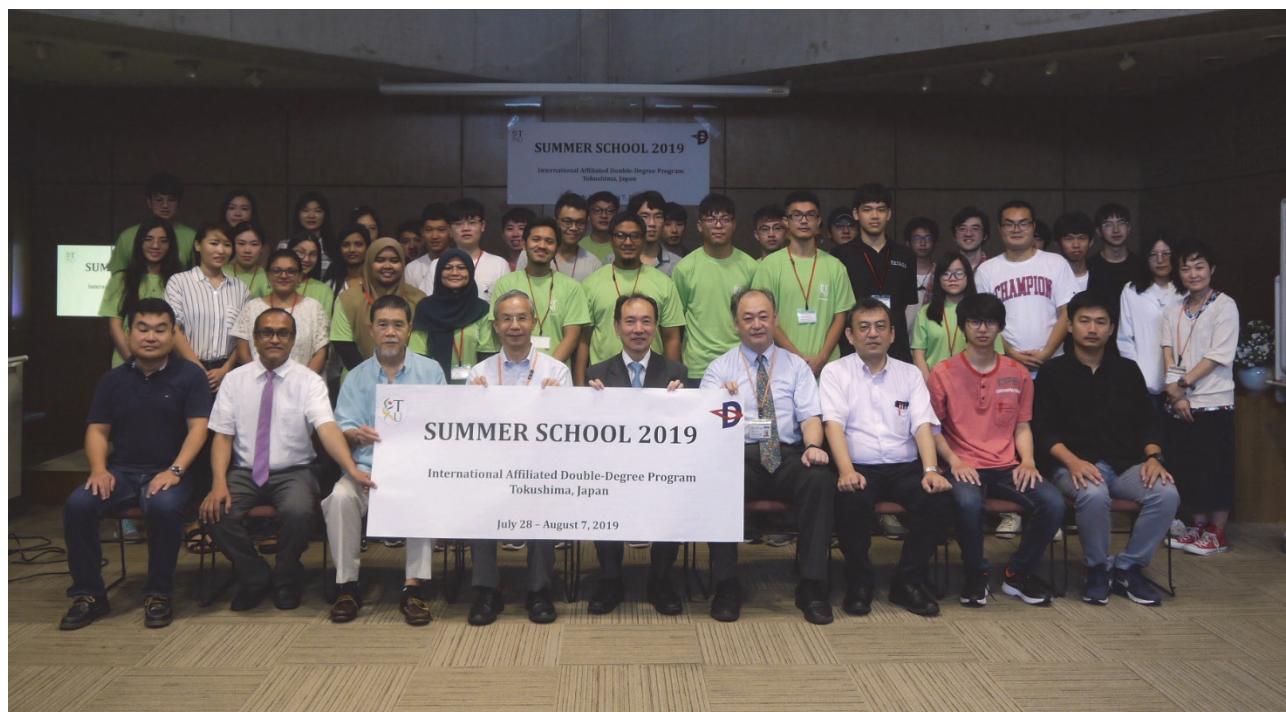
<b>First Week</b>		
<b>July 28 (Sun)</b>	16:00 - 18:00	<b>Registration</b>
<b>July 29 (Mon)</b>	10:00 - 10:15	<b>Opening Ceremony</b> - <b>Opening Speech</b> : Masaki Hashizume (Dean of Science and Technology) - <b>Opening Remark</b> : Mikito Yasuzawa (Director, CIREC) - Group Photo
	10:25 - 11:55	<b>Summer School Orientation:</b> Program and Information (Pankaj Koinkar)
	12:50 - 14:20	<b>Common Lecture 1:</b> Nanocellulose- What, Why, How and What for (Antonio Nakagaito)
	14:35 - 16:05	<b>Group Discussion I :</b> " Energy and Environment" Orientation (Pankaj Koinkar and Antonio Nakagaito)
	18:00 - 20:00	<b>Welcome party</b>
<b>July 30 (Tue)</b>	08:40 - 10:10	<b>Common Lecture 2:</b> "Introduction of Semiconductor Devices" (Jinping AO )
	10:25 - 11:55	<b>Common Lecture 3:</b> Japanese Language ( Satoshi Hashimoto)
	12:50 - 14:20	<b>Common Lecture 4:</b> Social Mission of Science and Engineering (Ri-ichi Murakami)
<b>July 31 (Wed)</b>	08:40 - 10:10	<b>Common Lecture 5:</b> Japanese Culture (David Moreton)
	10:25 - 11:55	<b>Common Lecture 6:</b> Global Environmental Problems and Renewable Energy (Masatsugu Oishi)
	12:50 - 14:20	<b>Common Lecture 7:</b> Introduction to Earthquake Geotechnical Engineering (Jing-Cai Jiang )
<b>August 1 (Thurs)</b>	08:30 - 19:00	<b>Field Trip 1:</b> Otsuka company, Naruto whirlpool, Shikoku Kakoki Factory
<b>August 2 (Fri)</b>	08:40 - 11:55	<b>Group Discussion II :</b> " Energy and Environment" Discussion and Poster preparation (Pankaj Koinkar and Antonio Nakagaito)
	12:50 - 14:20	<b>Panel Discussion:</b> Foreign teachers in Tokushima University
	14:35 - 16:05	<b>Poster presentation :</b> " Energy and Environment"
<b>August 3 (Sat)</b>		Free / Science Festival
<b>Second Week</b>		
<b>August 4 (Sun)</b>		Free / Science Festival
<b>August 5 (Mon)</b>	08:40 -10:10	<b>Common Lecture 8 :</b> Video coding algorithm and its implementation (Tian Song)
	10:25 -11:55	<b>Common Lecture 9 :</b> Wallpaper symmetry (Toshihiro Moriga)
	12:50 - 16:05	<b>Laboratory visits</b>
<b>August 6 (Tue)</b>	07:00 - 20:00	<b>Field Trip 2:</b> Panasonic Company, Spring 8 , Himeji castle
<b>August 7 (Wed)</b>	9:00 - 11:30	Students feedback on summer school experience
	11:30 - 12:00	<b>Closing ceremony</b>
	15:00 – 17:30	<b>Musical Event</b> (Josanjima campus)
	18:00 - 20:00	<b>Intercultural party</b> : Awa Kanko Hotel , Tokushima

### 2.2.3 講義概要

実施期間 2019年7月28日（日）～8月7日（水）

大学院先端技術科学教育部が開講しているサマースクールは、平成30年度では本教育部に所属するダブルディグリーコースの学生10名および本学学生3名を加えた38名の受講生で開講した。本年度は、海外からの受講生への補助金の提供することを予め伝えたことから、海外学術交流協定校から80名以上の応募があった。実施期間における宿泊の確保が26名分に限定されていたことから、最大人数を26名とし、双方向サマースクールプログラムを実施している国立台湾科技大学からの参加数は8名、マレーシア・マラッカ技術大学は5名、南台科技大学は4名とし、それ以外の協定校からの参加数は、最大2名とした。応募書類による一次審査、及びSkype面接を行い、最終的には昨年より16名多い25名参加者を決定した。応募書類審査では、学業成績、英語力に加え、参加動機、将来本学に長期留学する可能生も併せて判断した。また、専門分野が偏らず、可能な限り多岐にわたるようにすることも考慮した。

7月29日の午前中は、開講式を行った後、サマースクールのガイダンスと共に、参加全学生による自己紹介を行い、午後から講義を開始した。講義は近い将来発生が予測がされる「南海トラフ地震」やエネルギー・環境問題等の分野に加え、日本語表現・会話の講義も行った。7月30日からは、環境をメインテーマにした工学と理学を融合させたSTEM講義、また約6名のグループに分かれて行うPBL型グループディスカッション、更には、ディスカッション内容をポスターにまとめてプレゼンテーションを行う発表会も開催した。また、本年度も昨年度に引き続き、本学の外国人教員4名をパネリストに迎え、それぞれが本学で働くことになった経緯や動機をお話し頂くと共に、どのようにしたら留学生が増えるか、また、どのようにしたら海外に派遣できる学生数を増やすことができるかをテーマにディスカッションを行った。



開会式



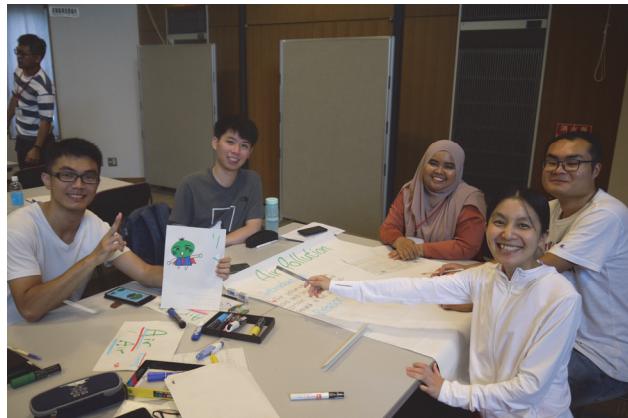
自己紹介



講義の様子



講義の様子



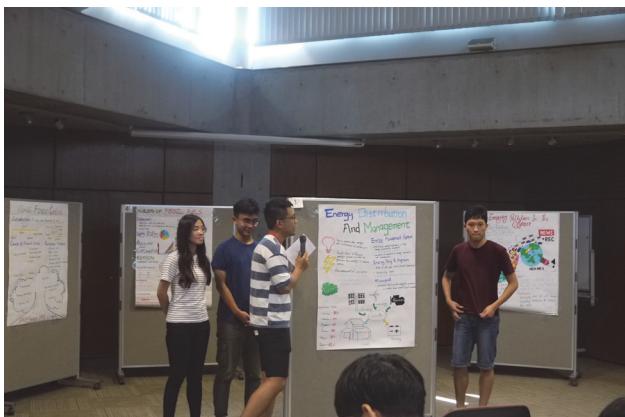
講義の様子



パネルディスカッション



パネルディスカッション



プロジェクトポスター発表



プロジェクトポスター発表

## 2.2.4 エクスカーション

実施日 2019年8月2日（木）

大塚製薬株式会社 徳島板野工場 → 鳴門の渦潮観潮船 → 四国化工機 阿南食品工場



大塚製薬株式会社 徳島板野工場



四国化工機株式会社 阿南食品工場



鳴門の渦潮



実施日 2019年8月6日（火）

パナソニック株式会社 エコテクノロジーセンター → SPring-8 → 姫路城



パナソニック株式会社 エコテクノロジーセンター





SPring-8



SPring-8



姫路城



**CERTIFICATE OF COURSE COMPLETION**  
**Summer School 2019**

Name :

Institution :

*This attests that the holder of this certificate has successfully completed offered as part of the Summer School Program 2019. The program was organized by the Summer School Committee, associated with the Graduate School of Advanced Technology and Science, Tokushima University, Japan.*

August 7, 2019

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Sumihare Noji".

Sumihare Noji,  
President  
Tokushima University  
Japan

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Masaki Hashizume".

Masaki Hashizume,  
Dean  
Graduate School of Advanced Technology and Science  
Tokushima University  
Japan

## Summer School 2019 : Survey Results

### 1. Write your educational level

Bachelor	3
Master student	17
Doctoral student	5

### 2. What were your reasons for attending Summer School? (you can choose more than one)

i. The financial and accommodation support	20
ii. I want to attend this university in the future	7
iii. Because of the location of the University	5
iv. The choice of subjects and activities	18
v. I have friend who applied here too	7
vi. Other reason	8

### 3. How do you judge the quality in general?

i. Overall Program	Excellent	20
	Good	5
	Average	0
	Poor	0
ii. Quality of lectures	Excellent	13
	Good	11
	Average	1
	Poor	0

### 4. How do you evaluate the organization and planning

i. Accommodation	Excellent	15
	Good	7
	Average	3
	Poor	0
ii. Social Event (field trips)	Excellent	23
	Good	2
	Average	0
	Poor	0
iii. Overall Organization and planning	Excellent	19
	Good	5
	Average	1
	Poor	0

### 5. How do you classify the laboratory visits and/or exercises?

Excellent	15
Good	8
Average	2
Poor	0

**6. How much influence do you expect the knowledge & skills you learned at the summer school will have on your future?**

A great deal	8
A lot of	13
Moderate	4
A little	0

**7. As a result of the summer school do you think you are more or less likely to get involved in research that is interdisciplinary?**

More likely	9
Likely	15
Less Likely	1
Not Likely	0

**8. As a result of attending the summer school, to what extent were you able to achieve goals that are important to you?**

More likely	9
Likely	15
Less Likely	1
Not Likely	0

**9. Do you like to participate in future Summer Schools?**

Absolutely Yes	17
Maybe	8
No	0

**10. The parts of field trip that you Liked Most?**

- i. Company visits 23
- ii. Japanese culture place visit 25

**11. The parts of field trip that you Disliked Most?**

- i. No comments 17
- ii. Travelling time for field trip 1
- iii. others 7

**12. Are you getting some financial support from your university such as registration fee, accommodation, and air ticket fees?**

No	18
Partially	7

## 2.2.7 成果報告

本年度も、本学の研究室へのインターンシップを実施することから、参加する学生に対して希望する研究室を記載するように促した（希望順で三つの研究室を記載）。その結果、ほとんどの学生から研究室名（教員名、もしくは当人の研究内容の情報）の記載があり、それらの情報をもとにインターンシップの受け入れ先の選定・承諾作業を行った。関連する各系・コースの国際連携教育開発センターの運営委員を通して対応して頂いたところ、いずれの学生も関連する研究室においてインターンシップを実施することができた。インターンシップを実施方法については、それぞれの研究室に委ねたが、インターンシップの実施日以降も継続的に研究室を訪問する学生も見られ、大変有意義な行事になったと思われる。また、本学において2019年3月に設置され、今年度から本格的スタートを切ったポストLEDフォトニクス研究所（pLED）の施設見学ツアーも実施した。ご協力頂いた研究室の教員・学生の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

海外からの参加学生と在校生とが、より活発に交流することを目的に、環境問題をテーマにしたPBL型グループディスカッション並びにポスター発表会を実施したところ、グループディスカッション、ポスター発表共に活気に満ちており、良い交流の場となった。しかし、本年度は、前期の終了時期がプログラムの後半まで重なっていたことから、在校生の参加者が例年より少なかったことは非常に残念である。

本年度も実施した外国人教員5名をパネリストに迎えたパネルディスカッションでは、外国人教員が本学で働くことになった経緯や動機をご紹介頂き、これから日本に留学することを考えている学生だけではなく、本学の留学生が将来のことを考える上で参考になるアドバイスになったように思われる。また、フロアの学生から多くの質問があり、非常に活発なイベントになった。

本年度は、大塚製薬、四国化工機、及びパナソニックの工場見学に加え、大型放射光施設SPring-8の見学を行った。各企業が行っている環境対応・対策を重視した取り組みの説明、並びに製品の安全・安心を追究したラインの自動化が進む製造現場を見学できたことは、多くの参加者に日本の企業が有する理念等を垣間見ることのできる良い機会になったと思われる。SPring-8は、本学の教員・学生の多くが利用しており、今回参加した多くの学生の研究にも活用できることから活発な質疑応答が行われた。

2. 3 国際センターサマースクール

「徳島であおう！」

**International Summer School  
at Tokushima University  
Get together in Tokushima!**



## 2. 3 国際センターサマースクール「徳島であおう！」

---

### 2.3.1 目的

本サマースクールは、(1) 海外の協定大学等から参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうこと、(2) 徳島大学での学習や研究、ならびに徳島の文化について理解してもらうこと、また日本人学生や地域住民と交流することで日本人と日本文化を理解してもらうこと、(3) 日本人学生や高校生を含めた地域住民が海外からの参加学生と共に活動することで国際的な視野を広げ、日本の外に目を向け、国際理解、多文化理解をすすめ、本学ならびに徳島地域のグローバル化を促進すること、(4) 様々な国や大学からの参加者が出会いお互い知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへの振り返りを促すこと、を目的として実施した。

### 2.3.2 日程

期 間：2019年8月6日（火）～8月13日（火） ※8月12日（月）に修了式を行った。

参加人数：93名（海外からの参加者：39名、日本人学生・本学留学生・高校生・地域住民：54名）

#### 【中国】

- ・大連理工大学 21名 (引率3名を含む)
- ・哈爾濱工業大學 2名

#### 【台湾】

- ・台湾嘉義大学 2名
- ・育達科技大学 2名

#### 【ベトナム】

- ・ハノイ土木大学 4名

#### 【インドネシア】

- ・ハントゥア大学 8名

日程

1日目：8月6日（火）		
15:00-	徳島駅集合&ホテルオリエンテーション	
2日目：8月7日（水）		
9:00-10:00	受付、必要書類記入	共用室 302、303
10:00-11:00	開講式、オリエンテーション	共用室 302、303
11:00-14:00	日本人学生と交流、昼食、キャンパスツアー	常三島キャンパス
14:00-15:00	日本文化講義～徳島と遍路	工業会館 1F 多目的室
15:00-16:45	日本文化体験～邦楽	工業会館 2F メモリアルホール
18:00-20:00	合同交流会	阿波観光ホテル
3日目：8月8日（木）		
9:00-11:00	徳島ビジネス学習	大塚食品（オロナミンC、マッチ工場）、大塚製薬能力開発研究所
11:00-12:00	昼食	大塚製薬内食堂
12:00-17:00	徳島文化体験～藍染め体験等	藍の館・靈山寺・渦の道
4日目：8月9日（金）		
10:00-12:15	徳島文化体験（地域サポーターと） A グループ：茶道→書道 B グループ：書道→茶道	フューチャーセンター 共用室 302、303
12:15-14:00	移動・昼食	
14:00-	研究室訪問	常三島キャンパス 蔵本キャンパス
5日目：8月10日（土）		
	予備日（自由行動）	
6日目：8月11日（日）		
8:15-11:00	ホテルチェックアウト、牟岐へ移動 徳島自然体験（牟岐少年自然の家）	牟岐少年自然の家
11:00-14:00	施設オリエンテーション、昼食、宿泊準備	
14:00-17:30	プログラムの振り返り	
17:30-18:10	夕食	
19:00-20:30	キャンプファイヤー	
20:30-22:00	入浴・消灯	
7日目：8月12日（月）		
6:30	起床	牟岐少年自然の家
7:10-7:50	朝食	牟岐少年自然の家
7:50-8:45	チェックアウト	
8:45-12:00	クラフト（しおり）作成、モラスコ牟岐見学	

12:00-13:15	昼食、お祈り等	
13:15-15:15	徳島大学へ移動	
15:15-16:00	フィードバックシート等の記入	共用室 302、303
16:00-16:30	修了式	共用室 302、303
16:30-20:00	自由行動（阿波踊り見学）	
20:30-22:45	神戸へ移動、ホテルチェックイン	神戸
8日目：8月13日（火）		
10:00-	ホテルチェックアウト・解散	神戸



合同写真



合同交流会



サマースクールの振り返り発表（修了式）

### 2.3.3 講義・活動概要

実施期間 2019年8月6日（火）～8月13日（火）

場所 地域創生・国際交流会館 他（日程参照）

#### 講師一覧

国際センター長	副学長（国際交流担当）	福井 清
国際センター教員	教授	金 成海
	教授	橋本 智
	特任教授	内藤 肇
	准教授	坂田 浩
	講師	TRAN HOANG NAM
教養教育院教員	准教授	モートン 常慈



開講式



キャンパスツアー

邦楽体験

## 2.3.4 エクスカーション

日時：2019年8月8日（木）

○大塚製薬 9:00 -11:00



○渦の道 12:40-13:50



○靈山寺 14:30-15:00



○藍の館 15:15-16:30



日時：2019年8月11日（日）～12日（月）

○徳島自然体験（牟岐少年自然の家）



オリエンテーション



昼食



キャンプファイヤー



クラフト（しおり）作成

# Tokushima University



THIS IS TO CERTIFY THAT

(NAME)

has completed  
the course program  
of  
International Center Summer School

“SUMMER PROGRAM 2019”

August 6 – August 13, 2019

*Sumihare Noji*

Sumihare Noji, Ph.D.  
President  
Tokushima University,  
JAPAN

福井 靖

Kiyoshi Fukui, M.D., Ph.D.  
Chairman  
Summer Program Organizing Committee  
Tokushima University,

## PROGRAM QUESTIONNAIRE

### For International Summer School at Tokushima Univ.

2019

Please answer ALL items in this program questionnaire. In order to improve our future programs, our feedback is very important for us. ※36名回答

1) Please write your affiliation (with names of the department, institute, university and country)

【中国】大連理工大学	18名
【中国】哈爾濱工業大學	2名
【インドネシア】ハントゥーア大学	8名
【ベトナム】ハノイ土木大学	4名
【台湾】台湾嘉義大学	2名
【台湾】育達科技大学	2名

2) Did this program have a positive impact for your study or future career? If yes, please write the reasons.

- 将来、日本語で勉強したい。
- いろいろな体験をした後で、日本語はちょっと進歩しました。
- 徳島の歴史、文化、自然を理解することができた。
- もし日本で勉強する時には、このサマースクールでの経験は日本で大学生活を送る上で助けになる。
- 日本建築について学んだ。
- 今回のサマースクールで自分の勉強に関して良い影響があった。日本に関する知識や言語スキルを得た。
- 色々な事を学び、友人もできた。
- 日本文化を学ぶことで、日本の建築スタイルも理解しやすくなった。
- 早起きすることを学んだ。おかげでクラスに遅刻しない。
- 自分の研究を続ける大きな機会となった。
- 多くのことを学んだ。例えば、日本人のように、他人へのマナー、できるだけ他人を助けるようなこと。
- 日本のことたくさん知ることができた。
- 新しい発見があった。教授や日本の技術を見ることで、より良いコミュニケーションや歯科学での自分のスキル向上を学んだ。
- 徳島大学大学院に進学したい。
- 日本の、特に徳島の生活等を学んだ。日本での歯科状況も学んだ。
- 時間を守ることと人を尊重すること。
- 日本の大学のイメージがクリアになった。二年後もっと勉強したい。
- 日本文化や徳島大学をもっと知ることができた。
- 日本をより近くに感じた。今回のプログラムを通して、日本の大学院で勉強したいと思うようになった。
- 将来、日本に留学する素晴らしさを教えてくれた。
- 日本文化をもっと知ることができた。日本人とのコミュニケーションの取り方も知った。
- 違う世界を見ることができた。
- 自分の視野が広がった。
- 日本人は時間厳守だから、自分も時間を守るようになった。
- 多くを学んだ。自分の視野が広がった。
- 他国の学生との交流で、自分たちとの違い、文化を知った。徳島は良い街だ。
- 他国の学生との交流でコミュニケーションの取り方、勉強の仕方を学んだ。自分の将来もは

つきりしてきた。

- ・ 日本は素晴らしい国だ。自然環境も良く、日本式は中国のより自分にフィットしている。
- ・ 英語力の向上と友人ができた。
- ・ 視野が広がったし、留学へのモチベーションが上がった。
- ・ 日本の事を知ることができた。
- ・ 日本で勉強に対する違った概念を学んだ。
- ・ 英語で学ぶ面白さと友達ができしたこと。
- ・ 日本国文化と異文化交流。
- ・ 色んな日本文化や他国の文化を知り、豊かな気分になった。私の英語も少しは上達した。

### 3) How did you think about the following activities?

#### - Lecture "Japanese Culture" by Associate Prof. Moreton

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (25名)	4 (9名)	3 (2名)	2	1

- ・ 私の英語はちょっと上手じゃない。
- ・ 外国人の報告はいいけど、私の英語はちょっと聞きにくい。
- ・ 徳島に関して基本的な知識を学んだ。
- ・ モートン先生はとても楽しい先生で、日本文化を分かりやすく紹介してくれた。
- ・ 日本で旅する上で大切な情報を教えてくれて、有益だった。
- ・ 楽しかった。
- ・ 徳島の事、食べ物、すだち君を知ることができた。良かった。
- ・ 日本国文化を知ることができたし、得たことを他の人とシェアすることができる。
- ・ 面白かった。(3名)
- ・ モートン先生は説明がとても上手だ。(4名)
- ・ 素晴らしい。
- ・ とても役に立った。
- ・ 最高、面白い、完璧。
- ・ モートン先生は徳島に興味を持つきっかけをくれた。
- ・ モートン先生は楽しくて面白い。講義は学ぶことが多かった。
- ・ モートン先生はとてもユーモアがある。(2名)
- ・ 日本国文化への理解が深まった。
- ・ 良かった。興味深かった。
- ・ 自由行動の日の予定を組む参考になった。
- ・ 日本と徳島の事をもっと知ることができた。
- ・ 講義は悪くない。モートン先生は面白かった。
- ・ とても良かった。先生は明朗でこのスタイルを続けてほしい。
- ・ 徳島に対する簡潔な紹介、先生は面白かった。
- ・ 実際に体験する方が良い。
- ・ 新しい発見だった。

### - Japanese Culture Experience: Traditional Japanese Music

Very Interesting	----	Average	----	Not Interesting
5 (30名)	4 (6名)	3	2	1

- ・ 色々な楽器を学ぶと面白い。(2名)
- ・ 邦楽の楽器を演奏するのは難しい。(2名)
- ・ 邦楽の楽器に関して学んだ。(2名)
- ・ 面白かった。
- ・ 初体験だった。楽しかった。
- ・ 邦楽(琴等)を演奏するのは初めて。信じられない。素晴らしい!
- ・ 楽器を実際に見て触ることができた。どうやって演奏するのかも分かった。
- ・ 美しかった。(2名)
- ・ 邦楽の音色は素晴らしいかった。(2名)
- ・ 楽しかった。
- ・ 本物だ。
- ・ プロ、感動。
- ・ いくつかの楽器は音を出すのが難しかった。
- ・ 音楽を通して外国文化を学ぶのは面白い。邦楽の楽器を演奏するのは初めてだった。
- ・ 面白くて意義深い。特に“さくら”という演奏は良かった。
- ・ 今回最も面白かったアクティビティーの一つ。もっと時間をとった方がいい。
- ・ 良かった。楽しかった。
- ・ 素晴らしかった。(2名)
- ・ 素晴らしい演奏だったし、実際に体験できた。
- ・ 素晴らしかった。もっと体験したかった。
- ・ 邦楽を体験できて光栄だった。
- ・ 良かった。
- ・ 自分で演奏体験ができるのが嬉しかった。
- ・ 徳大生が邦楽を演奏しているのが素晴らしい!
- ・ 素晴らしい演奏だった。演者に感謝。
- ・ とても美しく、印象的だった。
- ・ 邦楽は美しい。琴は中国の楽器に似ている。特に三味線が好きだ。

### - Tokushima Business Culture at Otsuka Factory

Very Interesting	----	Average	----	Not Interesting
5 (24名)	4 (8名)	3 (4名)	2	1

- ・ 工場の中で面白い。(2名)
- ・ 大塚製薬の企業理念を知った。
- ・ 素晴らしい体験。
- ・ 興味深い、今まで見たことのない多くのものを見ることができた。
- ・ 良かった。興味深かった。
- ・ 工場見学で飲料の製造過程を知ることができた。
- ・ 素晴らしい技術を見ることができた。素晴らしい。
- ・ 目新しいものはなかったが、説明は面白かった。
- ・ 良かった。(2名)
- ・ 初めての体験だった。
- ・ 大塚工場がその知識を中国に教えるのは心動いた。
- ・ 中国の工場と日本の工場の違いを知った。
- ・ 知識を得て、ランチを楽しんだ。
- ・ とても良かった。素晴らしい工場だ。
- ・ 交流が少なかった。
- ・ 工場の管理、運営を学べた。
- ・ 日本で実際に工場見学できる特別な機会だった。
- ・ 初めての工場見学だった。素晴らしい。
- ・ 多くを学んだ。
- ・ 写真を撮ることができないのが残念。工場は素晴らしい。
- ・ 強い印象を得た。

- ・ 創造性の側面を見ることができた。
- ・ 興味深い企業文化とランチが美味しかった。
- ・ 衝撃的だった。
- ・ とても良かった。お土産もらった。
- ・ 創造性を学んだ。
- ・ 創造性の重要性を学んだ。
- ・ 日本の企業は近代的だ。

- Tokushima Local Culture Experience: Indigo Dyeing, Ryozen-ji Temple, Whirlpool Observation

Very Interesting	----	Average	----	Not Interesting
5 (28名)	4 (7名)	3 (1名)	2	1

- ・ 徳島の文化は面白いです。(2名)
- ・ 徳島の自然環境を見て学んだ。
- ・ 渦潮は素晴らしかった。
- ・ 面白い経験だった。(2名)
- ・ インドネシアでも同じようなものがある。日本でも同じようなことをするのは興味深かった。
- ・ 藍染、天然の青の色が最高。靈山寺、渦潮ともに初めてで良い体験だった。
- ・ ハンカチを藍染する過程を学んだ。渦潮は本当に素晴らしかった！
- ・ 良かった。
- ・ 美しい風景を見たり、日本文化を知ることができた。
- ・ 精山寺と渦潮は良かった。藍染はインドネシアでしたことがあった。
- ・ 素晴らしかった！(3名)
- ・ 思い出深い。
- ・ 渦潮を見るのは難しかったが風景は美しかった。
- ・ 美しい風景だった。渦潮は見られなかったが、空も海も藍染もきれいな青で感動した。
- ・ 美しい風景だった。(4名)
- ・ 言葉にできない美しさだった。連れていってくれて感謝します！
- ・ 藍染は面白かったが、自分の作品は、いまいちだった。靈山寺も興味深かったし、渦潮は見つけるのが難しかった。
- ・ とても良かった。楽しかった。
- ・ 楽しかった。
- ・ 美しい風景だった。写真をたくさん撮った。
- ・ 自分で藍染をするのが面白かった。
- ・ 一番良かった！徳島は美しい。
- ・ 風景は美しく、海風は心地よかった。
- ・ 興味深かったし、美しかった。
- ・ 藍染はとても面白かった！

- Japanese Culture Experience: Traditional Japanese Calligraphy and Tea Ceremony

Very Interesting	----	Average	----	Not Interesting
5 (29名)	4 (6名)	3 (1名)	2	1

- ・ 台湾で学ぶことがあります。(2名)
- ・ もう一回学ぶといろいろな物を習いました。
- ・ 日本の伝統文化を学べてとても良かったし面白かった。
- ・ 茶道の体験が今回一番の体験だった。
- ・ 面白い経験だった。(2名)
- ・ また体験してみたい。
- ・ 面白かった！！書道は初めてで上手く書けなかった。茶道も体験できて良かった。
- ・ 書道のやり方、茶道での振る舞いを知ることができた。
- ・ 書道、難しい。
- ・ 今まで知らなかったことや知識を学んだ。
- ・ とても楽しかった。今回、挑戦できて嬉しかった。
- ・ とても文化的だった。
- ・ 思い出深い。

- とても面白かったし、やってて楽しかった。
- ずっと前から茶道を体験したかった。茶道はエレガントで穏やかだ。抹茶は苦いけど。
- 日本の文化を学んだ。
- 父から書道を習っていた。茶道は中国のとはかなり違っていた。
- 茶道と書道をより知ることができた。
- ためになった。
- 身近に体験できた。好きな活動の一つだった。
- このアクティビティーの後、穏やかな気分になった。“みんな、平等”と感じた。
- 書道、好きだ。
- 両方とも好きだ。
- 先生方は我慢強く教えてくれて、多くを学んだ。
- 先生方は優しくて、その道のプロだ。
- まあまあ。中国でやったことがある。
- 伝統文化を感じた。
- とても面白かった。茶道は初体験で楽しかった！
- お茶は味わえなかったが、プロセスは面白かった。
- 茶道はとてもエレガントだ。書道も良い体験だった。

#### - Learn the University: Campus Tour with Tokushima University Students and Lab. Visit

Very Interesting	----	Average	----	Not Interesting
5 (25名)	4 (5名)	3 (5名)	2(1名)	1

- 学生はとても親切です。(5名)
- もっと日本語と英語を勉強しようと思った。
- 徳大生と話せて良かった。
- 建築の分野がなかった。
- 日本で学びたい学生には役立つ。
- 新しい場所に行き、バックグラウンドの違う友人たちと出会い、新しい経験ができた。
- 研究室訪問をして、ここで学びたいと思うった。設備も教授陣も素晴らしい！
- 研究室訪問はとても素晴らしい。Museum Anatomy も良かった。
- もつといたかった。
- 歯科技術を学んだり、教授から素晴らしい講義を聞くことができた。
- 素晴らしいかった。
- とても良かった。
- 思い出深い。
- 彼らの研究分野に関してもっと自分に知識があつたら良かった。
- 研究室を訪問することはできなかつたが、中国人の先生方からレクチャーを受けることができた。
- 日本人学生と話したりすることで、日本の学生生活を知ることができた。
- 専門的な知識を学んだ。
- 言葉の壁が大きかつた。
- 学生は親切で気配りがあった。
- 先生方、学生たちの発表は素晴らしい。が、昼食後で眠かつた。
- 興味深かつた。
- 多くを学んだ。
- 先輩方と話すことで自分の専門分野に関して多くを学んだ。
- 先生はとても親切で、専門的な知識を学んだ。

#### - Peer Learning Activities: Mugi Nature House and Islands tour

Very Interesting	----	Average	----	Not Interesting	無回答
5 (17名)	4 (12名)	3 (6名)	2	1	(1名)

- インターネットはちょっと遅い。(2名)
- とても田舎で自然豊かだった。
- 台風が来て本当に残念です！
- 島めぐりがなかった。(2名)
- 面白い経験だった。

- 美しい場所で快適だった。
- 滞在するのに良い場所。一日で牟岐を離れるのは寂しかった。もっといたかった。プールやビーチに行きたかった。
- 島めぐりできなかったのも残念。
- ビーチがあり、自然の中で過ごせた。自然をもっと大事にしよう。
- 島めぐりができなかつたので、面白くなかった。食事は良かった。
- 自然の中にいることで心と体のバランスがとれた。
- パフォーマンスをするのは楽しかった。島めぐりできなかつたのが残念だった。
- アウトドアにはピッタリな場所。
- 思い出深い。
- 島めぐりできなくて残念。ただ牟岐で過ごした時間は楽しかった。
- 島めぐりができなかつた。ここはサーフィンで有名な所だと聞いた。みんなでサーフィンをするとか（冗談だけど）。
- 台風のせいで島めぐりできなかつたのが本当に残念。（5名）
- 楽しかった！オタ芸、楽しい！
- 良かった。
- 海が好きなので波しぶきを浴びるのは楽しかった。キャンプファイヤーもすごく良かった。
- 素晴らしい体験だった。
- 自然とのつながりを感じた。
- 色んな体験ができた。
- 食事が良かった。海もきれかった。
- リラックスできた。
- 牟岐少年自然の家は忘れられない経験だった。一緒に過ごすことで友人になれたと思う。
- 牟岐少年自然の家はきれいで、体育館や憩いの部屋のような部屋がたくさんあった。生徒の教育に良いと思う。
- 食事は美味しかったし、海はきれいだった。台風の影響で島めぐりできなかつたが、楽しい時間を過ごせた。

#### 4) What do you think you learned the most through this summer school?

- 語学学習の改善。
- 日本語をしゃべる速度、日本語の話す方法。
- 他の国から来た学生たちとのコミュニケーション力
- 邦楽
- 日本文化（3名）
- 語学力の向上、日本人のふるまいや近代的な日本を学んだ。
- 先生方は熱心でとても良かった。ただ、時々、日本文化を理解できず、間違えることがあった。
- チームワーク、日本文化、日本語、リサイクル、環境保全。
- 時間を守ること、我慢強くなること、元々内向的な性格だったが、このサマースクールを通して少しずつ知らない人にも心を開いていった。
- 参加学生の一部には他の人との間に距離があったと思う。
- 日本の文化、伝統、生活様式の初体験。時間厳守。自立した人になること。
- 一つずつ説明はできないが、多くのことを学んだ。印象に残ったのは日本人の姿勢、態度。彼らの親切心に心動かされた。とても親切で、自分ももっと親切に、良いマナーを身に着けたい。社交性を持つことも大切だと学んだ。
- コミュニケーション、他人を尊重すること、もっと丁寧になる、時間を守るための新習慣。
- 日本の文化、食べ物、習慣、他人とのコミュニケーション力。
- 友人たちと、他では経験できない日本文化を知ったりするときに上手くやっていくこと。
- 日本人はとても親切で時間厳守だ。今回のプログラム中、多くの人に助けられた。
- 日本の生活様式。
- 日本で数日、暮らすことで日本での留学生生活がどんな感じか少し体験できた。日本人はストイックで真面目だと心配していたが、実際に会った日本人はみんな親切だった。
- 日本文化と徳島大学への理解が深まった。
- 日本とは何か。だと思う。
- 他国からの学生グループへの配慮に関して学んだ。自分の視野が広がっていった。日本語力も向上したし、将来、日本に留学する時に役立つだろう。
- 英語のスピーキング能力。グループ分けで他国の学生もいたので、英語でコミュニケーションを取るために英語で話す必要があった。自分にとって挑戦だった。

- ・他国からの参加学生とのコミュニケーションの取り方。
- ・他国からの参加学生との相互コミュニケーションと日本の伝統文化体験。
- ・日本文化と日本語の向上。
- ・他の学生と交流できたのが素晴らしかった。みんなに後れを取らないよう頑張りたい。
- ・シャイにならず、英語を練習する。
- ・日本文化と日本人への強い印象を学んだ。時間を守る人間になり、健康的なライフスタイルを送るようにしたい。
- ・このプログラムのおかげで日本が好きになった。日本への初めての旅行だった。日本人はとても親切だと知った。
- ・徳島は美しい街だ。
- ・もっと社交的になって世界とつながっていきたい。世界は広く、色々な文化がある。国際的になるのは学校や町だけじゃなく、個人としても大事。
- ・日本での日常生活のルールを学んだ。
- ・コミュニケーション能力と日本文化。
- ・英語でのコミュニケーション、社交的になる、自立する。
- ・創造性とコミュニケーション。
- ・様々な日本文化を体験することができ、コミュニケーションの取り方も学んだ。

**5) Please tell us what should be improved in this program.**

- ・なし、とても良かった。(2名)
- ・スケジュールが少しあわざりづらかった。徳島から神戸のこと。
- ・日程内容に改善の余地あり。
- ・すべて良かった。
- ・英語の改善、コミュニケーションスキル。
- ・桜が見られる春の時期にも開催してほしい。
- ・なし。
- ・島めぐりの代替案を用意すべき。ずっと長い時間、待つだけで退屈だった。出かけたりゲームをすべきだった。
- ・なし。サマースクールは完璧。本当に楽しかった。ありがとうございました。
- ・研究室訪問の時間がもっと欲しい。
- ・グループ活動の時間がもっと欲しい。グループメンバー同士、お互いにもっと知り合うことができる。
- ・台風が来なければ。
- ・研究室訪問。学生が研究しているところを見学できれば、もっと良かったと思う。
- ・最終日はちょっと忙しすぎると思う。徳島の他の観光地も訪ねたかったし阿波踊りを習いたかった。
- ・もっと室内のアクティビティを！歩かずにすむ！外は暑すぎる。太陽で焼けそう。
- ・日本での滞在日数を伸ばす。
- ・期間がもっと長ければ良かったと思う。
- ・もっと英語でのスピーチがあったり、運動、ワークがあればよいと思う。
- ・レクリエーション活動を増やしてほしい。
- ・自分たちでアクティビティを選択できれば良かった。例えば、野球とか他のスポーツとか。
- ・もっと日本人学生と交流したかった。もっと阿波踊りの体験をしたかった。
- ・徳大生との交流に少し問題を感じた。スピーキングに。もっと話ができるようになることを期待している。
- ・午後の活動には昼寝が必要。
- ・研究室訪問。プレゼンテーションやスピーチだけでなく現場感がほしい。13:00~15:00は眠い時間帯なのでスピーチに集中できない。
- ・もっと海外の大学を招待すべき。
- ・牟岐少年自然の家での食事がもっと十分にあれば尚良かった。なぜ最初、学生同士が顔を合わせる時に、自己紹介タイムがなかったのか。シャイな性格なので、困ってしまった。
- ・中華料理も出してみてはどうでしょうか。
- ・もっと参加費を安くしてほしい。
- ・日本人学生は男女1名ずつ、ついてほしい。
- ・アカデミックな交流ができるアクティビティがあればいいと思う。
- ・かなり良いスケジュールだと思う。

6) Do you recommend your juniors to attend our summer school, if we hold it next year? (Please circle)

Very Much	-----	Average	-----	Not at all
5 (30 名)	4 (5 名)	3 (1 名)	2 (0 名)	1 (0 名)

7) Do you want to come back to TU for your study?

Very Much	-----	Average	-----	Not at all
5 (6 名)	4 (11 名)	3 (18 名)	2 (1 名)	1 (0 名)

8) Overall, what do you think about this summer program?

- ・ 先生方はとても面白く、とても良かった。
- ・ いろいろな日本文化を学ぶ、日本人はとても親切です。
- ・ とても素晴らしかったし、良かった。
- ・ 完璧、文句なし！
- ・ 良かった。日本文化と徳島大学に関して学んだ。
- ・ 通常の授業ではない、様々なことを学べる素晴らしい機会となり、有意義な夏を過ごせた。できるなら、もっと日本人の振る舞いを学びたかった。徳島の美しい自然を見る事ができた。素晴らしかった！
- ・ 徳島は美しい街です。今回、徳島に来られて、人々や建物、澄んだ空気等に触れ、素晴らしい時間を過ごせた。
- ・ 徳島大学、ありがとう！
- ・ 知識の向上、日本文化を知る上でサマースクールは素晴らしい機会となった。徳島大学での交流経験を持つことで、日本に留学するための有益な情報を得ることができる。
- ・ サマースクールはとても楽しかった。このプログラムで新しい体験をし、私の中で変化するものがあった。今まで経験してこなかった多くのことを学んだ。映画を観たりゲームをするよりも、もっと良い休暇を過ごすことができた。
- ・ 様々な初体験ができて、素晴らしい、面白い、最高。
- ・ このサマースクールは本当に素晴らしいと思う。多くの事を学ぶだけでなく、多くの体験ができる。藍染、渦潮はとても素晴らしかった！とてもとてもとても楽しかった！サマースクールを開催してくれてありがとうございました。
- ・ 来年もぜひ開催してほしい。後輩にこのサマースクールを勧めます。日本、大好きです。ありがとうございました！
- ・ 素晴らしい経験だった。
- ・ 素晴らしい経験だった。忘れないだろう。
- ・ サマースクールは最高だと思う。新発見もあるしお互いに学ぶこともある。
- ・ 素晴らしかった！多くを学んだし、新しい友人もできた。もう一度参加できるなら、参加したい。
- ・ とても良かった、忘れないだろう。
- ・ 後輩に推薦する価値がある。徳島は素晴らしい街だ。小さいが完結しているし外国人に優しい。
- ・ 徳島はとても良い街です。もっと徳島の文化を学べたらと思う。
- ・ 素晴らしいプログラムです。皆さんの尽力に感謝します。
- ・ 日本文化を教えてくれる良いプログラムです。
- ・ とてもとても意義深く、楽しかった。
- ・ 本当に楽しかった、面白かった、素晴らしかった。今までの人生の中で最高の旅の一つとなつた。
- ・ 日本文化、日本人、マナーを学ぶ良い経験になった。素晴らしかった！
- ・ サマースクールはとても面白かった。他国からの参加学生と友達になる機会を得た。来年の夏休みに時間があるなら、
- ・ また参加したい。先生方は楽しくて熱心だった。
- ・ サマースクールはとても良かった。多くを学んだ。他の学生ともコミュニケーションがとれたし、日本文化を体験できた。ただ、毎日、活動するのは多すぎると思う。終日活動した日は、本当に疲れた。
- ・ サマースクールは日本文化を学び、日本をよく知る素晴らしい機会となった。徳島と徳島大

学が好きです。

- ・ また他国の学生との交流を通じて多くを学んだ。
- ・ 素晴らしいプログラムだが、完璧ではない。けれども、徳島で価値ある経験ができた。先生方にも感謝している。このプログラムの事は忘れないだろう。徳島の“青”は忘れない。
- ・ とてもとても良かった。絶対に忘れない。日本文化を知り、他国の学生と友達になれた。
- ・ 素晴らしかった！！改善すべき点はあるが、忘れられない素晴らしい体験となった。
- ・ 皆さんの尽力に感謝します。家族や友人にこのプログラムでの経験を話すでしょう。ありがとうございました。
- ・ 他国の学生との交流できたのは素晴らしい機会だった。色々な文化、特に日本文化を体験できた。
- ・ ありがとうございました。ごちそうさまでした。
- ・ このプログラムに感謝します。日本大好きです。
- ・ 楽しくて素晴らしいプログラムだった。忘れないだろう。
- ・ 多くの友人を得た。英語と日本語を毎日、勉強した。徳島大学で、先輩と専門分野について話し、多くのアドバイスをもらった。徳島大学の先生方、学生はとても親切だった。ありがとうございました。
- ・ 楽しいプログラムだった。暑かったけれど、みんなで話をしたり、買い物に行ったり、学んだりした。
- ・ 徳島で素晴らしい時間を過ごせた。
- ・ 豊かで興味深かった。多くの事を得ることができた。

## 2.3.7 成果報告

2019年8月6日（火）から8月13日（火）にかけて、徳島大学国際センターはサマースクール「徳島であおう！」を開催した。このサマースクールは毎年継続的に行なわれており、今年度は海外協定大学等からの学生36名（中国20名、インドネシア8名、ベトナム4名、台湾4名）、引率教員3名、日本人学生21名（延べ人数）、地域住民13名、高校生20名の合計93名が参加した。

国際センターのサマースクールは、将来、本学大学院に入学する留学生や、将来交換留学生として本学で学ぶ学部学生をターゲットとしている。そのため、本サマースクールに参加した学生が学部や大学院に入学すること、そして「徳島にまた来たいと思う」気持ちを育むことを念頭にプログラムを企画・運営した。

国際センター主催のサマースクールの目的と内容は、次の4点である。

1. **徳島大学におけるアカデミックな活動に関する情報提供**：『海外の協定大学等から参加する学生が将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうための動機付けと情報提供を行う』

国際センター教員による「徳島と徳島大学の紹介」や徳島の文化に関する講義、日本語学習、常三島・蔵本地区での「キャンパスツアー・研究室訪問」を行なった。

「キャンパスツアー・研究室訪問」に関しては、参加者の専門に合った学部を訪問し、本学の最先端の研究を直接見聞きし、ユニークな研究や教育活動について知ることができるように企画した。今回は、総合科学部、歯学部、理工学部に分かれて研究室訪問を行った。

参加者が将来本学で学ぶためには、「何を学ぶことができるのか」といった学術分野に関する情報と「どの教員の研究室で学ぶことができるのか」といった研究分野や研究室に関する情報を得ることはとても重要であり、今回の「徳島大学紹介」や「研究室訪問」でこれらの情報を具体的に提供できたと考える。

2. **徳島・日本文化、そして日本人を理解するための学びの機会の提供**：『本学での学習や研究、ならびに徳島の文化について理解してもらう。また日本人学生や地域住民と交流することで日本人と日本文化を理解してもらう』

今回のプログラムでは、徳島の文化に関する講義、地域の方々の協力による書道・茶道体験や邦楽体験、藍染め体験、大塚製薬工場等の企業見学、徳島市での阿波踊り見学といった、多様な文化理解と交流の機会を提供し、参加者から高評価を受けた。今回は、新しい試みとして牟岐少年自然の家で徳島の自然を体験することを盛り込んだ。残念なことに、台風接近のため予定していた島めぐりはできなかつたが、モラスコ牟岐で貝の展示を見たり、近くで取れた海藻を利用したしおりづくりを体験することができた。

短いプログラムではあったが、本学学生、地域の人々や高校生と交流を体験し、参加者は多くの時間「生の」日本人・日本文化と接することができたと思う。単に徳島や日本の文化を知るだけでなく、自分たちが実際に体験することで日本や徳島を知り、日本人の行動や感情を理解してもらう機会を提供できたという点で、今回のサマースクールは高く評価できると考えている。

**3. 日本人学生、地域住民、そして大学の国際化：『日本人学生や高校生を含めた地域住民が海外からの参加学生と共に活動することで国際的な視野を広げ、日本の外に目を向け、国際理解、多文化理解をすすめ、本学ならびに徳島地域のグローバル化を促進する』**

日本人学生や地域の方々にとっても、本サマープログラムは有益なものであったと考える。特に、本学の日本人学生や地域の高校生にとっては、年齢の近い多くの外国人と接する機会は貴重で、彼らの国際理解や異文化理解を促進することができたと考える。

一方、本学日本人学生や地域の方々は様々な活動を通して外国人の目線や考え方を知ることができたであろう。本学の国際化に加えて、地域の国際化を支援することも本学の役割であり、本プログラムはこの点でも貢献できたと考える。

**4. 個々の参加者のグローバル化と世界的なネットワークの形成：『様々な国や大学からの参加者が出会いお互い知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへの振り返りを促す。また、本学と参加者、参加大学とのネットワークを形成する』**

様々な背景をもった参加者（海外協定大学等からの学生、日本人学生、地元高校生、地域の人々）が直接交流する中で、参加者には自文化について説明を求められる機会が多く生まれた。各参加者が紹介し合うときに、自然と相違点だけでなく共通点が見つかり、自文化と他文化に対する理解や関心が高まり、他文化を尊重し、知ろう、理解しようとする姿勢が見られた。

加えて、参加者は様々な活動を通してお互いを知り、SNS 等を使って今後も連絡が取り合えるようなネットワークを形成する機会となった。

### 3 総括

---

徳島大学においては、本年度は総合科学部サマープログラム、先端技術科学教育部サマースクール、及び国際センターサマースクールの3コースのサマープログラムを実施した。各コースのプログラム実施時期は、全学の委員会である「サマープログラム等実施委員会」において検討し、昨年度と同様、全プログラムの中心となる時期を7月下旬～8月初旬に合わせた。その結果、3コースの出席者全員が参加できる「合同交流会」を8月7日に開催することができた。3コースのプログラム全体を合わせて海外の協定校等から合計69名の学生が本学を訪れた。

総合科学部サマープログラムと国際センターサマースクールは学部学生を対象とし、先端技術科学教育部サマースクールは学部高学年または大学院生を対象としたプログラムを提供している。それぞれのプログラムの中で実施される英語による授業や研究室訪問、キャンパスツアーや等により、海外からの学生は徳島大学を知ると共に茶道や和楽器、藍染めなどの日本文化を体験することができた。また、県内企業訪問や文化体験等を通じて日本の伝統文化や徳島を知ることができた。海外から参加した学生は徳島や日本に対する理解を深め、徳島や日本を身近に感じることができたものと思われる。一方、本学から参加した日本人学生にとっては海外に関心を持つ良い機会となり、グローバル化の推進にも一定の効果があったものと推測している。さらに、サマープログラムの学生募集を通じ、徳島大学を海外にアピールすることができた。

海外から参加した学生の中には、本学への留学を希望している学生もいた。このプログラムの狙いは海外からの参加学生が徳島を体験し、将来、本学への本格的長期留学に繋げることにある。巻頭言にも記載したとおり、本学のサマープログラム・サマースクールは先発部局で12年、後発部局でも8年になる。しかし、プログラムの効果の定量的検証はこれまでなされていない。これまででもサマープログラムへの参加をきっかけに本学への留学を決定した学生があり、一部、優秀な留学生の確保につながっている。アンケート等を実施し、これまでの成果を検証するとともに、より効果的な企画を策定する必要があり、また、その時期に来ていると思われる。

なお、海外からの参加者からは、これら3つのサマープログラムについて、高い評価を得ており、次年度も引き続き実施する予定である。

## 4 今後の課題とまとめ

---

### 【サマースクール全体としての今後の課題】

- ① 大学全体の取組みとして、統一性のあるコース設計
- ② 交流行事等のイベントの合同実施
- ③ 期間や規模等、サマープログラムの定義の明確化
- ④ 担当教員、事務職員の業務量の軽減
- ⑤ 関係部局からの経費、業務の支援
- ⑥ 参加者受入れ国の拡大
- ⑦ 参加者が滞在する快適な宿舎の確保
- ⑧ 天候不順の際の対応、代替案の準備

### 【総合科学部サマープログラム】

#### (1) 実施体制

当初は少人数の教員で実施されてきたサマースクールであるが、授業担当教員が年を追うごとに増加しており、授業、実習、生活全般などの面で関わることが可能となった。改組後、協力教員・授業担当教員が総合科学部と教養教育院に分散した。教養教育院の三隅教授、斎藤教授にはプログラムの立案と実施にご協力をいただいた。連携を今後も継続し、相互の協力を行なうことが肝要であろう。

同時並行で実施される他部局のプログラムとも連携して、内容の充実や負担の軽減を考慮すべきであろう。

#### (2) 本学に在籍する学生について

授業やエクスカーションに参加した本学に在籍する学生の満足度は非常に高い。しかしながら、授業や期末試験との重なりから、泣く泣く参加を断念するケースが少くない。実施時期の問題は難しい。

#### (3) 全般のこと

育達科技大学側からは、多くの学生が参加を希望している。国際センターのプログラムと合わせて、今後とも多くの希望者を受け入れたい。研修の実施にあたっては、多額の補助を受けるとともに、事務方の関係各所には、多大なる支援をいただいた。ここに記して感謝申し上げるとともに、次年度以降も、さまざまな方面でのご協力をお願いしたい。

### 【先端技術科学教育部サマースクール】

JASSO 留学生交流支援制度短期研修・研究型プログラムが採択され、参加学生に対して渡航費・滞在費等の支援を行った 2015 年度は、海外から約 50 名の参加があった。一方、プログラムが採択されなかった 2016 年度、2017 年度および本年度の海外からの参加者はそれぞれ 28 名、17 名および 9 名と減少した。本年度は短期研修・研究型プログラム（50 名分）が追加採択され、本プログラム参加者（23 名分）の支援を行うことができたことから応募者は 80 名以上と激増した。実際の宿泊施設の調達等の運営を考慮し、最終的には海外からの参加学生を 25 名に制限したが、参加者に対して満足度の高いプログラムを企画・運営することができたと思われる。サマースクールは夏休みの期間に開講され、航空運賃が 1 年の中で最も高い時期である。海外からの参加者は、主に中国、台湾、マレーシア、インド等の

国からであり、そのほとんどが私費で参加している。参加学生への支援のための予算確保が強く求められる。なお、追加採択の残り 27 名分は、サマースクールプログラムと類似したイベント、スプリングスクールプログラムを 3 月に開催することを計画しており、海外協定校からの参加者 27 名も決定した。

先端技術科学教育部サマースクールの開催は、例年 7 月最後の日曜日から約 10 日間行っているが、これは前期授業の開講時期でもあることから在校生にとって参加し難い日程といえる。日程を少し後ろにずらすことでの在校生の参加は容易にする反面、阿波踊り期間に入るため従来使用していた宿舎の確保は困難となる。そのため、今後は学内施設も含めた宿舎施設の再考が必要と思われる。

今年度も、海外からの参加者に対して個別の研究室インターンシップを実施した。参加申込時に記載のあった「希望する研究室」または「当人の研究内容」等の情報をもとに、関連する各系・コースの国際連携教育開発センターの運営委員を通してインターンシップ先の選定を行い、いずれの学生も関連する研究室においてインターンシップを実施することができた。マッチングを行った研究室におけるインターンシップ体験であったことから、参加者からの評価が非常に高かった（アンケート結果より）。当初はインターンシップを二日目等、プログラムの前半に行いことを想定していたが、講義担当者や会場の都合等により、プログラム後半の 8 月 5 日の実施となった。そのため、いち早く学生間の交流が開始できるように。インターンシップ先の教員または学生とは可能な限り、二日目までに顔合わせを行えるように努めた。

多くの留学生に取って文化の異なる徳島（日本）における日常および教育環境に加えて、研究環境・生活に関するイメージを取得する良い機会となったと思われる。また、在校生にとっても英語で研究内容の説明を行うのに加え、海外の大学の日常・教育・研究環境に関する生きた情報を得る絶好の機会となっていることから、今後は在校生の国際会議発表、更には海外留学へのモチベーションアップに繋がることを期待している。

最後に、サマースクールの実施体制について述べる。これまでには、サマースクールに積極的に協力頂ける学科（専攻）がある反面、協力を仰ぐのが難しい学科（専攻）も存在すると述べてきたが、インターンシップの実施も加えると、今年度も一部の領域にとどまることなく全学科（専攻）の協力を得た。今後もより広い専門分野の海外学生が参加できるサマースクールの開講が実施できる体制の構築が必要である。そして徳島大学で実施されるサマースクール申込窓口の統一や日本文化体験等、他のサマースクールとの共通部分は国際センターが担当する等、これまで以上にサマースクール運営業務の効率化を図るべきだと考える。また、折角 8 月上旬まで、徳島においてプログラムを実施しているのにもかかわらず、阿波踊りに参加することなく帰国させるのは、非常に残念に思う。これは、宿泊施設の確保ができないためであるが、今後は、国際交流会館の利用等を他のサマープログラムとの連携を強化して検討すべき事項だと思われる。

## 【国際センターサマースクール】

### 1. 日程・期間・運営等の課題

今年度は台風の影響で、一部活動をキャンセルしたが、それ以外は計画通りすべての計画を予定通り実施できた。

猛暑の季節にサマースクールを開催するため、暑さ対策は欠かせない。今回は、屋外での行動・活動をなるべく少なくし、できるだけ屋内での活動を中心にプログラムを作成した。ただ、暑さ対策と職員の休養を確保するために例年行っていた高校生との街歩きを見送ったこともあり、日本人学生との交流がかなり限られたものとなってしまった点は再考する必要がある。

例年どおり、徳島で本場の阿波踊りを体験してほしいと考え、日程を8月12日までとしたが、11日、12日と徳島市での宿泊ができなかつたため、11日は牟岐少年自然の家で、12日の夜にはバスで神戸に移動しホテルで宿泊することとした。阿波踊りに関しては、多くの学生が「よかったです」と回答していることから、今後も阿波踊りを鑑賞できる日程で行つていただきたいとは思うが、お盆期間中の神戸のホテルも予約が難しいこと、日本人学生が夏休みであるため交流する機会が非常に限定されることを考えれば、日程に関する検討をする必要があるのかもしれない。

予算の都合上、例年通り参加費も徴収した。今回は、昨年度から増額し3万円を徴収したが、そのため最初の応募者が少なく、最終的には参加者の半数以上が同一校からの参加者になった。今後は、予算と参加費、支出をよく検討し、ふさわしい期間と内容、参加費を考え、より幅広い学生が参加できるようにしていただきたい。

今年度は、最初の応募が少なかつたこともあり、事前キャンセルはほとんどなかつた。なるべくキャンセルをしないように参加大学と学生に連絡し、また期日を越えるとキャンセル料を徴収することを言及したためだと思われる。来年も、できるだけキャンセルが出ないように募集していただきたい。

プログラム期間内の宿泊に関しては、徳島駅前のホテルと牟岐少年自然の家を利用したが、全体的には非常に良かったと思う。牟岐少年自然の家の利用に関しては、枕カバーやシーツの折り畳み方を指導したり、時間厳守で行動する必要があつたりすることから、多少心配していたが、特に混乱や問題なく宿泊することができた点は評価できる。

年々、スマートフォン・タブレットを持参し日本でのネットワークに接続する参加学生が増えており、今年度はほぼ全員がなんらかの形でネットに接続できる状況であった。今年度も参加学生とのやりとりをLINE、WeChat、Facebookで行つたため、連絡がスムーズにできた。SNSは学生同士の情報交換にも使われ、またプログラム終了後も参加者同士や徳島大学のスタッフとの繋がりが続いている。このようなSNSの活用の有効活用を今後も進めていただきたい。

## 2. プログラムの内容の充実

総合科学部や先端技術科学教育部のサマープログラムとは異なり、国際センターのサマースクールは学生の専門の学習を提供することはせず、徳島大学の紹介、徳島・日本の文化理解や日本人学生・地域の人々との交流のための活動を行い、概ね好評であった。

参加学生のアンケートでは、専門の授業や日本語学習の時間を増やしてほしいという声もあるが、参加者の専門がバラバラであり、日本語のレベルも参加者によって大きく異なるため、現状のプログラムの内容を大きく変更することはできない。今後は総合科学部、先端技術科学教育部のサマープログラムとの連携を具体的に検討し、日本語学習、企業見学等、合同交流会以外に共通で行うことができる内容とその実施を検討する必要があると思う。

研究室訪問に関しては、徳島大学の良さをもっと理解してもらうために、内容の充実を図るべきである。特色ある、興味深い研究をしている教員を探し、直接見学の交渉をして、参加者の専門に関係なく見学に行くといったことがあっても良いだろう。あるいは、上記の述べたように学部との連携を強め、学部の教員に専門の授業を行つてもらったり、実習を企画してもらったりする等が検討できるだろう。徳島大学のイメージアップの方法を、積極的に検討していく。

プログラムの振り返り発表では、牟岐少年自然の家のネットワーク環境がやや脆弱であったこともあり、予定していたようなオンラインでの共同作業ができなかつたのは残念だった。遠隔地であることもあり、詳細にわたるネットワークの確認ができなかつたことが悔やまれる。

地元高校生との交流に関しては、邦楽体験に参加した脇町高校からの参加者20人と触れ合う機会があつた程度で、昨年度のような「事前講習を通して英語の練習を行う」といったきめ細やかな交流活動はできなかつた。事務側から「1日は休養日を取らせることが是非とも必要である」という要求があり、

それにこたえる形で昨年実施していた「高校生との街歩き」と見送ったことがその背景にあるが、別途何らかの形で高校生とのより深い交流を実現する必要があったと思う。

毎年のことではあるが、本学の日本人学生の参加の方法は再検討を要する。テスト期間中及び夏期休業期間中にサマースクールが行われるため、日本人学生の参加が十分に得られなかつた。参加してくれる学生はとても積極的であったが、限られた人数になってしまった。事前に「サマープロのための英会話講座」のような企画を提供することで、日本人学生にもメリットと思われるような事前指導等を計画してみる必要があるだろう。

今回参加した留学生の中には、英語でも日本語でもコミュニケーションができない学生が少見受けられた。冊子に書いてあるスケジュールやキャンパスマップ等の情報は理解できたようだが、英語・日本語でのコミュニケーションには苦労することがしばしばあった。派遣元の大学に「最低限でも英語でのコミュニケーションができる学生を送るように」という要求はした方が良いだろう。

## 5 担当者一覧

---

### サマープログラム等実施委員会実施委員長

福井 清：副学長（国際センター長）

### サマープログラム等実施委員会実施委員

金 成海：教授（国際センター）  
村上 敬一：教授（総合科学部）  
谷岡 哲也：教授（医学部）  
松香 芳三：教授（歯学部）  
山崎 哲男：教授（薬学部）  
安澤 幹人：教授（理工学部）  
長宗 秀明：教授（生物資源産業学部）  
三隅 友子：教授（教養教育院）

### 総合科学部サマースクールプログラム

村上 敬一：教授（大学院社会産業理工学研究部）  
吉岡 宏祐：准教授（大学院社会産業理工学研究部）

### 先端技術科学教育部サマースクール

森賀 俊広：教授（大学院社会産業理工学研究部）  
安澤 幹人：教授（大学院社会産業理工学研究部）  
アントニオ ノリオ ナカガイト：准教授（大学院社会産業理工学研究部）  
コインカー パンカジ マドゥカー：講師（大学院社会産業理工学研究部）  
吳 雨濃：助教（大学院先端技術科学教育部国際連携教育開発センター）  
浅田 沢：大学院先端技術科学教育部国際連携教育開発センター

### 国際センターサマースクール「徳島であおう！」

福井 清：副学長（国際センター長）  
金 成海：教授（国際センター）  
橋本 智：教授（国際センター）  
坂田 浩：准教授（国際センター）  
TRAN HOANG NAM：講師（国際センター）

### 事務局

福川美千代：国際課長  
松尾麻里子：国際課副課長  
川上ちぐさ：国際課留学生支援係長  
大塚 綾子：国際課留学生支援係事務補佐員

## サマースクールTシャツ

2012年、第一回国際センターサマースクール「徳島であおう！」の開催に際し、参加者や日本人学生サポーター、教職員の一体感を高め、互いに協力して国際交流を推進することを目的に青色のTシャツを作製した。キャッチフレーズ「徳島であおう」は、①徳大生も含めた徳島の人にある、②参加した各国の仲間にある、③自分を見つめ直して新しい自分にある、の意味が込められている。このTシャツのバックの文字は国際センターの地域サポーターでもある書道家の吉野美苑(吉野美保)氏の作で、以後、毎年国際センターサマースクールで使用されていたが、2015年からは、各コース色違いのTシャツを作製することとなった。

参加者の良き思い出になると同時に、帰国後にもこのTシャツを手にとって徳島大学への関心を深めてくれることが期待される。



総合科学部（ライトブルー）



先端技術科学教育部（ライトグリーン）



国際センター（ブルー）

## **徳島大学サマープログラム 2019 報告書**

編集発行：徳島大学サマープログラム等実施委員会  
徳島市南常三島町1丁目1番地  
発行年月日：2020年3月31日